

5 市民意識調査

(1) 基本属性

性別 (F 1)

性別は、「男性」が44.4%、「女性」が52.6%である(図表5-1-1)。

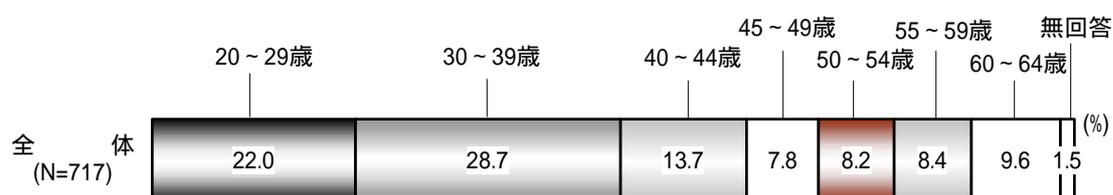
図表5-1-1 性別(全体)



年齢 (F 2)

年齢は、「30～39歳」が最も多く28.7%、次いで「20～29歳(22.0%)」、「40～44歳(13.7%)」が続いている(図表5-1-2)。

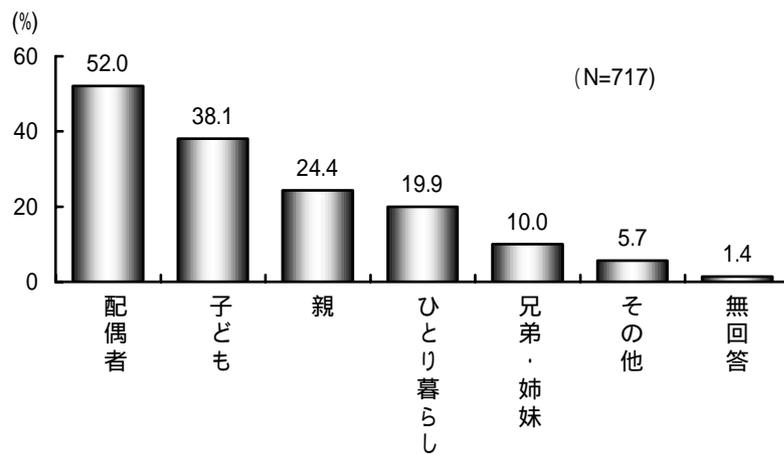
図表5-1-2 年齢(全体)



家族構成 (F 3)

同居者は、「配偶者 (52.0%) 」が最も多く 5 割を超え、次いで「子ども (38.1%) 」、「親 (24.4%) 」が続いている (図表 5 - 1 - 3) 。

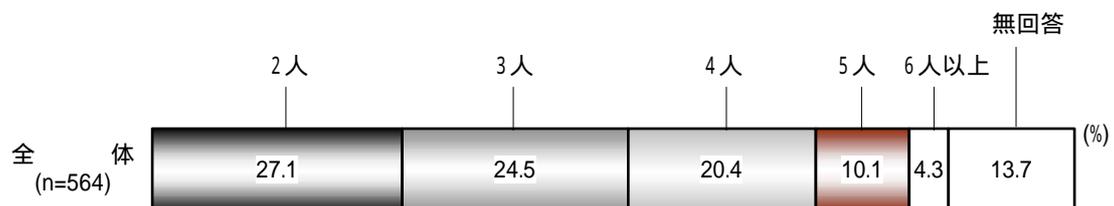
図表 5 - 1 - 3 家族構成 (全体 / 複数回答)



世帯人数 (F 3 - 1)

同居者がいる場合、世帯人数は、「2人 (27.1%) 」が最も多く、次いで「3人 (24.5%) 」、「4人 (20.4%) 」が2割台が続いている (図表 5 - 1 - 4) 。

図表 5 - 1 - 4 世帯人数
<ひとり暮らし以外と回答した人> (全体)



既婚・未婚（F 4）

既婚・未婚については、「結婚または同居のパートナーがいる（54.1%）」が5割を超えている（図表5 - 1 - 5）。

図表5 - 1 - 5 既婚・未婚（全体）



高齢者との同居の有無（F 5）

高齢者との同居の有無については、「同居していない（78.8%）」が8割近くを占める（図表5 - 1 - 6）。

図表5 - 1 - 6 高齢者との同居の有無（全体）

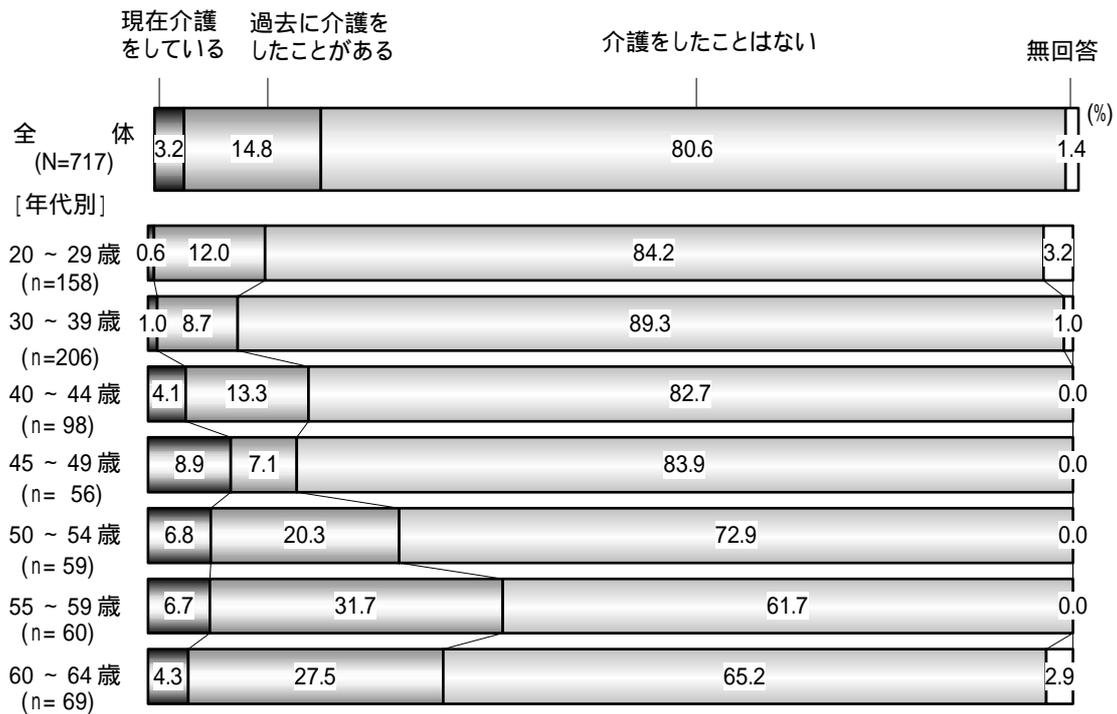


介護経験の有無（F6）

介護経験の有無については、「介護したことはない（80.6%）」が8割を占める。

年代別にみると、いずれの年代も「介護したことはない」が最も多いが、50歳以上になると「現在介護をしている」と「過去に介護をしたことがある」をあわせた《介護経験のある人》が2割を超え、特に55～59歳では、4割近くみられる（図表5-1-7）。

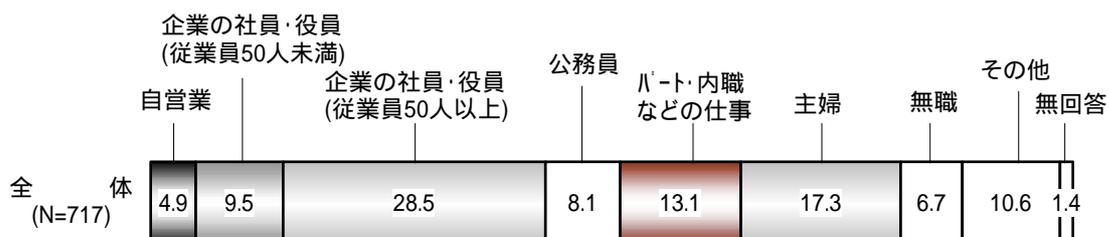
図表5-1-7 介護経験の有無（全体、年代別）



職業（F7）

職業については、「企業の社員・役員（従業員50人以上）（28.5%）」が最も多く、次いで「主婦（17.3%）」、「パート・内職などの仕事（13.1%）」が続いている（図表5-1-8）。

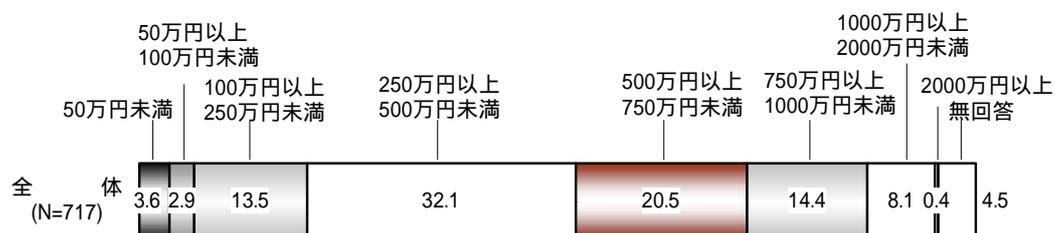
図表5-1-8 職業（全体）



収入（F8）

世帯全体の年収は、「250万円以上500万円未満（32.1%）」が3割を超え最も多く、次いで「500万円以上750万円未満（20.5%）」が2割台が続いている（図表5-1-9）。

図表5-1-9 収入（全体）



居住地域 (F 9)

居住地域については、「第一地区 (22.9%)」が最も多く、次いで「第二地区 (17.4%)」、「第三地区 (17.0%)」がほぼ同じ割合で続いている (図表 5 - 1 - 10)。

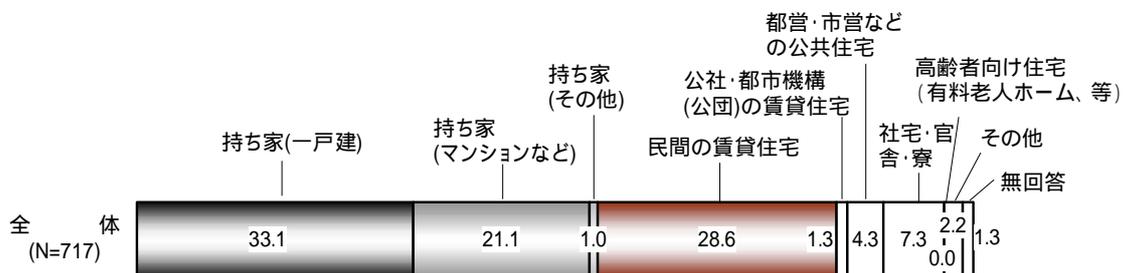
図表 5 - 1 - 10 居住地域 (全体)



住宅 (F 10)

住宅については、「持ち家 (一戸建て) (33.1%)」、「持ち家 (マンションなど) (21.1%)」、「持ち家 (その他) (1.0%)」をあわせ、《持ち家層》が 55.2% と 5 割以上を占める。次いで「民間の賃貸住宅 (28.6%)」となっている (図表 5 - 1 - 11)。

図表 5 - 1 - 11 住宅 (全体)



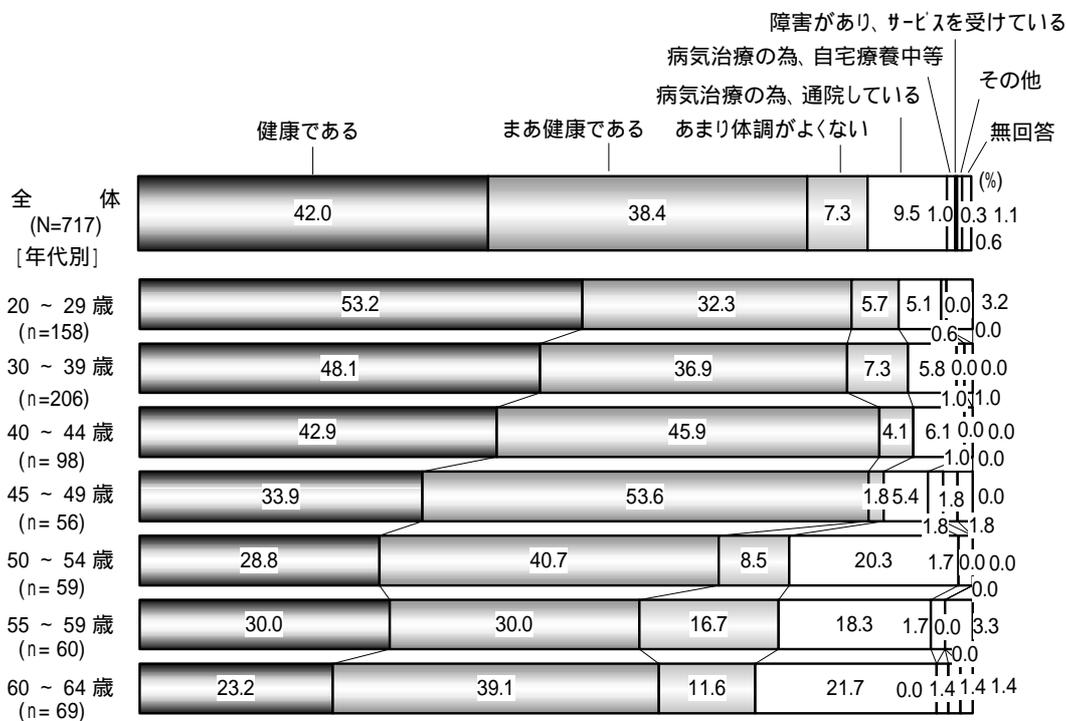
(2) 健康状態・健康づくり

健康状態(問1)

健康状態については、「健康である(42.0%)」と「まあ健康である(38.4%)」をあわせ、8割が健康であるとしている。

年代別にみると、20から49歳までは8割以上が健康であるとしているが、50歳以上は6割台に減る(図表5-2-1)。

図表5-2-1 健康状態(全体、年代別)



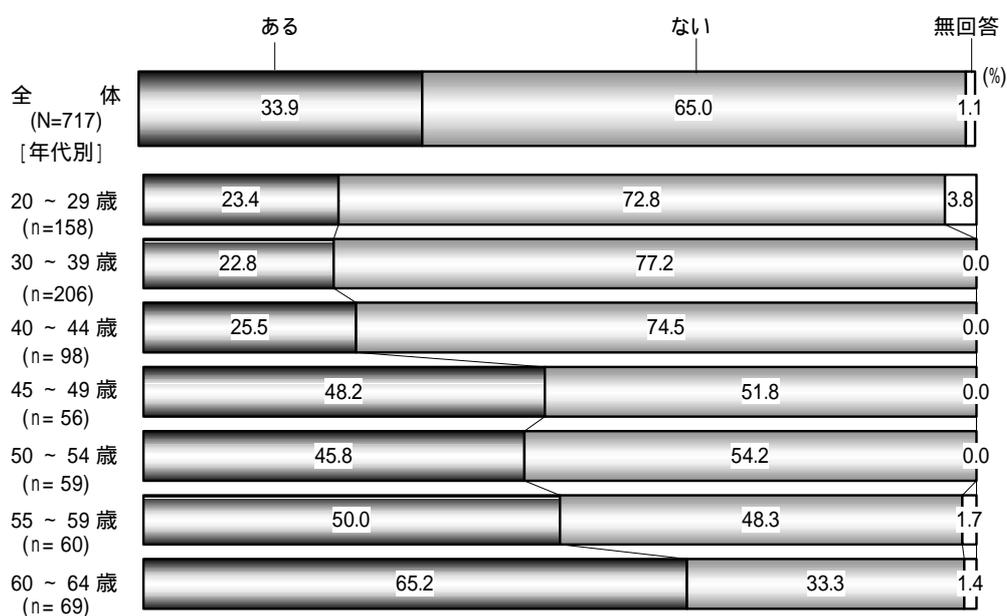
健康機関の受診状況（問2、問2 - 1 - ア）

現在治療中の病気の有無については、3人に2人が「ない（65.0%）」としている。

現在、定期的に通院している医療機関数は、平均は1.4か所である。

年代別にみると、20から44歳までは現在治療中の病気が「ない」は7割台となっているが、55歳以上になると「ある」が「ない」を上回り、60～64歳になると「ある（65.2%）」が6割を超える（図表5 - 2 - 2）。

図表5 - 2 - 2 健康機関の受診状況（全体、年代別）



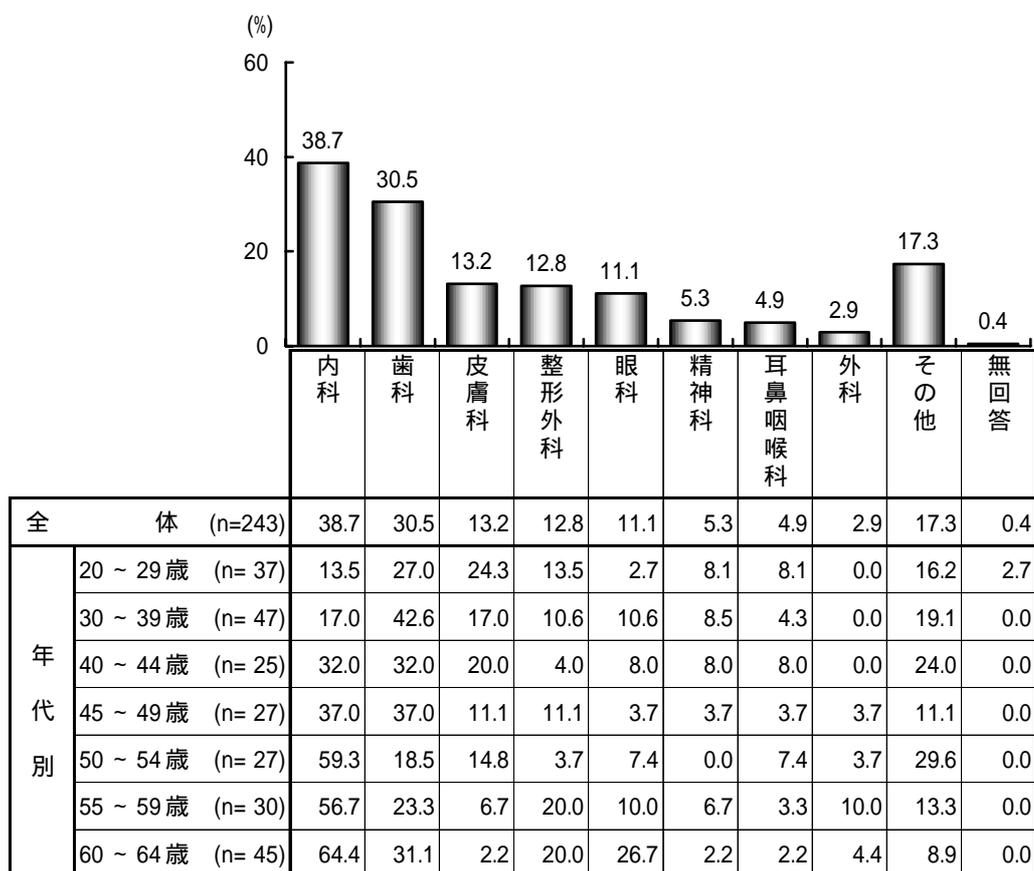
診療科（問2 - 1 - イ）

診療科については、最も多いのは「内科(38.7%)」である。次いで「歯科(30.5%)」が3割台で続いている。

年代別にみると、20～29歳、30～39歳では「歯科」が最も多いが、40～44歳、45～49歳では「歯科」と「内科」が同数で最も多くなり、50歳以上になると「内科」が5割以上を占め多くなる（図表5 - 2 - 3）。

図表5 - 2 - 3 診療科

< 医療機関での受診状況があると回答した人 >（全体、年代別 / 複数回答）

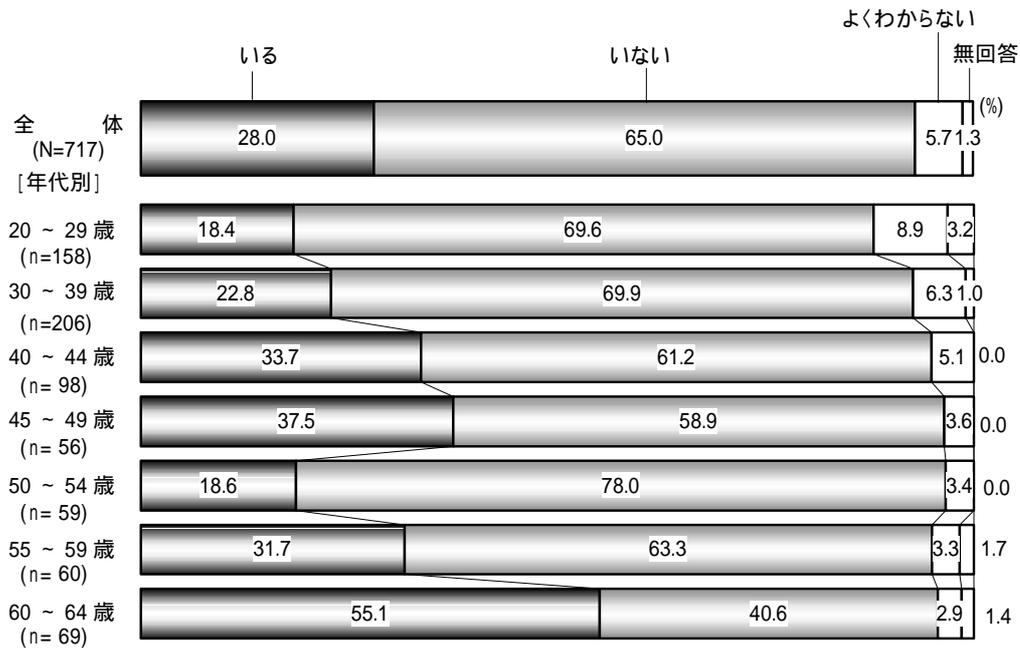


かかりつけ医の有無（問3）

かかりつけ医の有無については、「いる」が28.0%、「いない」が65.0%である。

年代別にみると、かかりつけ医が「いる」割合は20から49歳までは年代があがるにつれ高くなるが、50～54歳は「いる(18.6%)」が1割台と低い。しかし55～59歳では31.7%と3割を超え、60～64歳では半数を超える（図表5 - 2 - 4）。

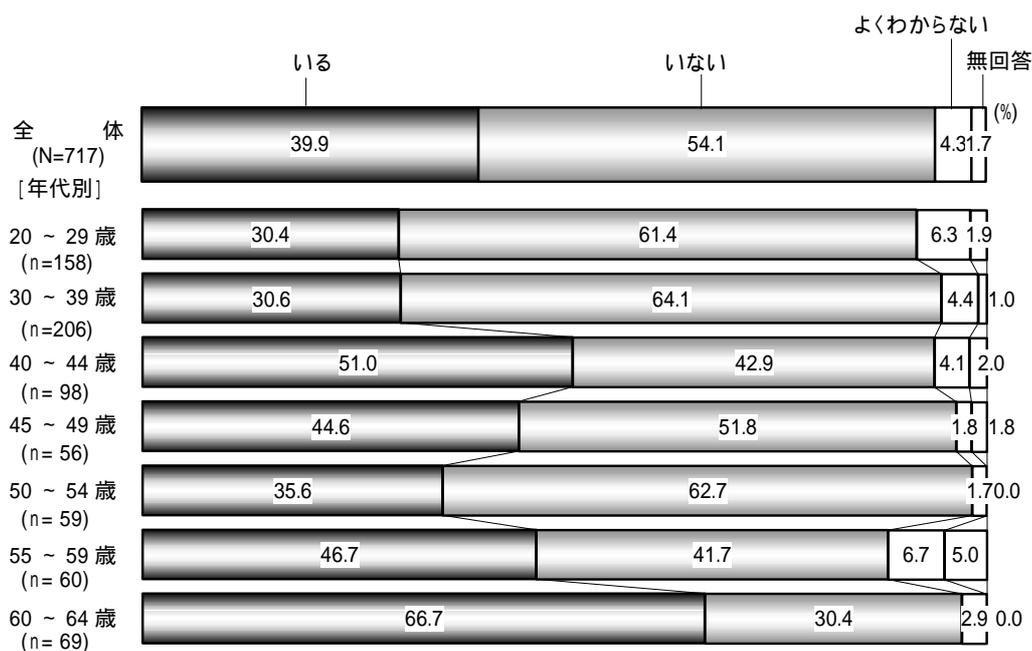
図表5 - 2 - 4 かかりつけ医の有無（全体、年代別）



かかりつけ歯科医の有無（問4）

かかりつけ歯科医の有無については、「いる」が39.9%、「いない」が54.1%である。年代別にみると、40～44歳、55～59歳、60～64歳では「いる」が「いない」を上回り、特に60～64歳では「いる（66.7%）」が6割を超える（図表5-2-5）。

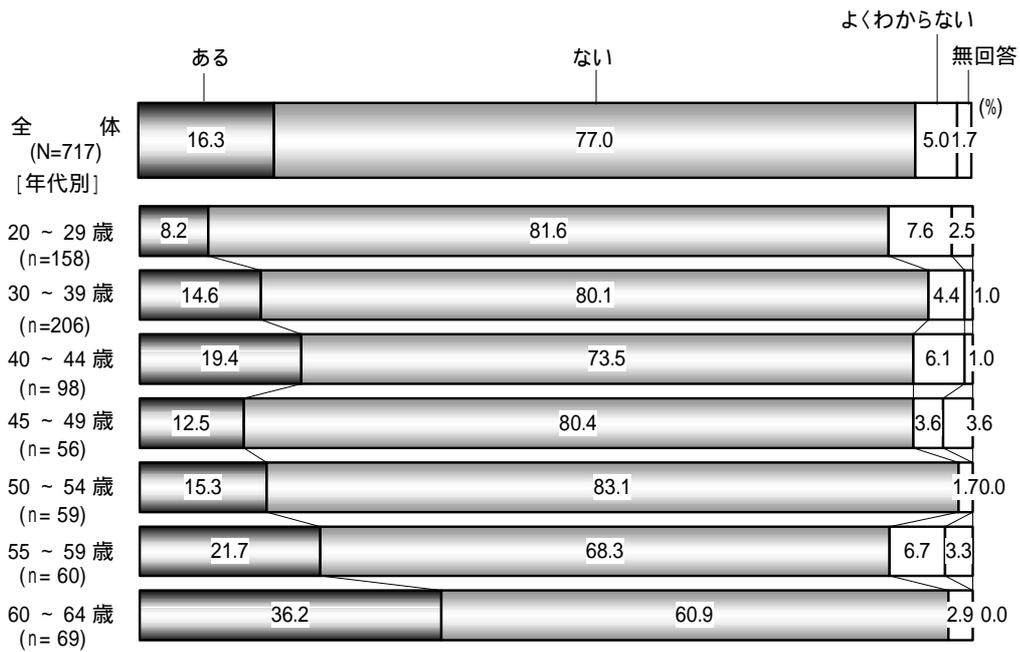
図表5-2-5 かかりつけ歯科医の有無（全体、年代別）



かかりつけ薬局の有無（問5）

かかりつけ薬局の有無については、「ある」が16.3%、「ない」が77.0%である。
 年代別にみると、60～64歳では、「ある（36.2%）」が3割を超え、他の年代に比べ高い
 （図表5-2-6）。

図表5-2-6 かかりつけ薬局の有無（全体、年代別）

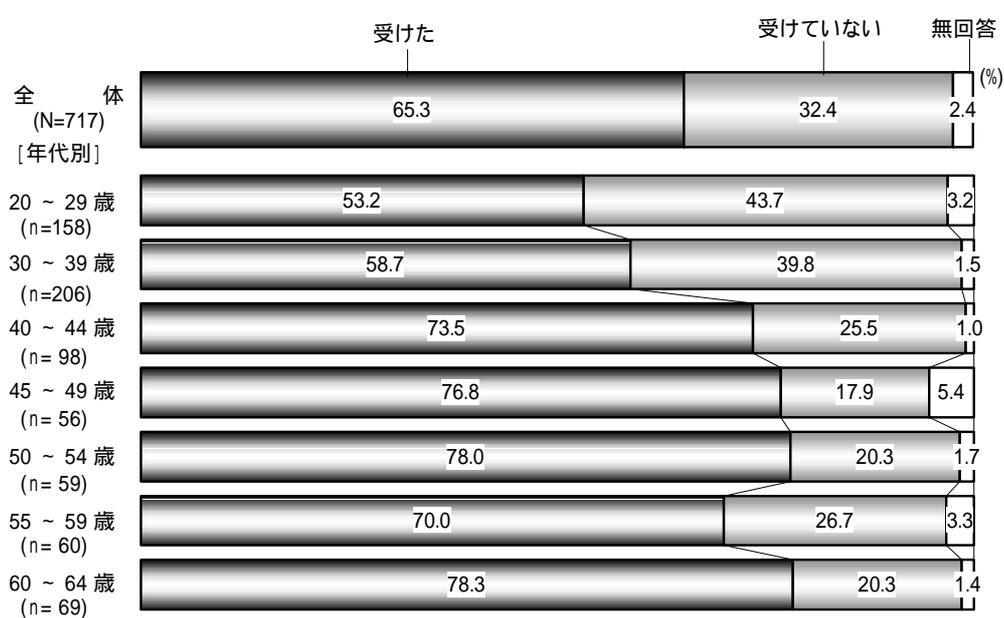


健康診査の受診状況（問6）

1年以内の健康診査の受診状況については、「受けた」が65.3%、「受けていない」が32.4%で3人に2人が「受けた」としている。

年代別にみると、20から39歳までは「受けた」は5割台であるが、40歳以上では「受けた」が7割を超える（図表5-2-7）。

図表5-2-7 健康診査の受診状況（全体、年代別）



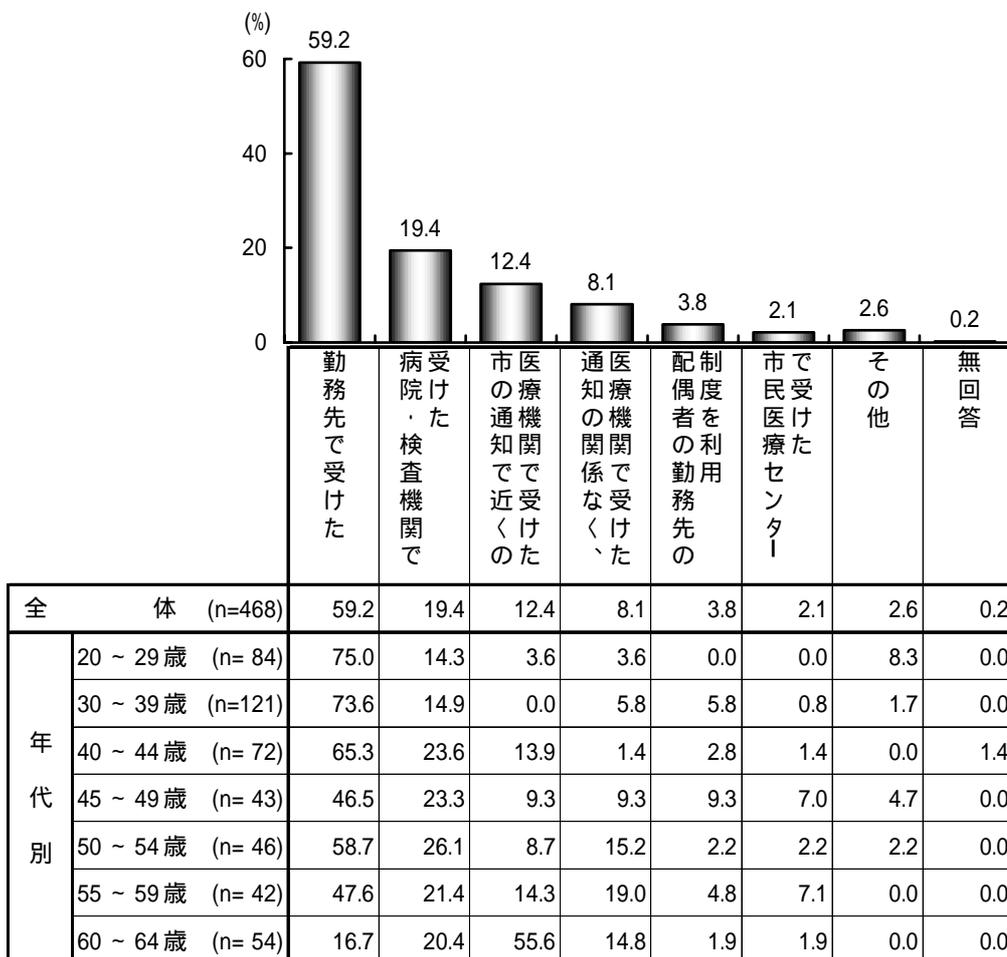
場所（問6 - 1）

健康診査を受けた場所については、「勤務先で受けた（59.2%）」が約6割を占め、「病院・検査機関で受けた（19.4%）」、「市の通知で近くの医療機関で受けた（12.4%）」を大きく引き離している。

年代別にみると、20から59歳までは「勤務先で受けた」が最も多いが、60～64歳では「市の通知で近くの医療機関で受けた（55.6%）」が5割を超える（図表5 - 2 - 8）。

図表5 - 2 - 8 場所

<健康診査を受けたと回答した人>（全体、年代別/複数回答）



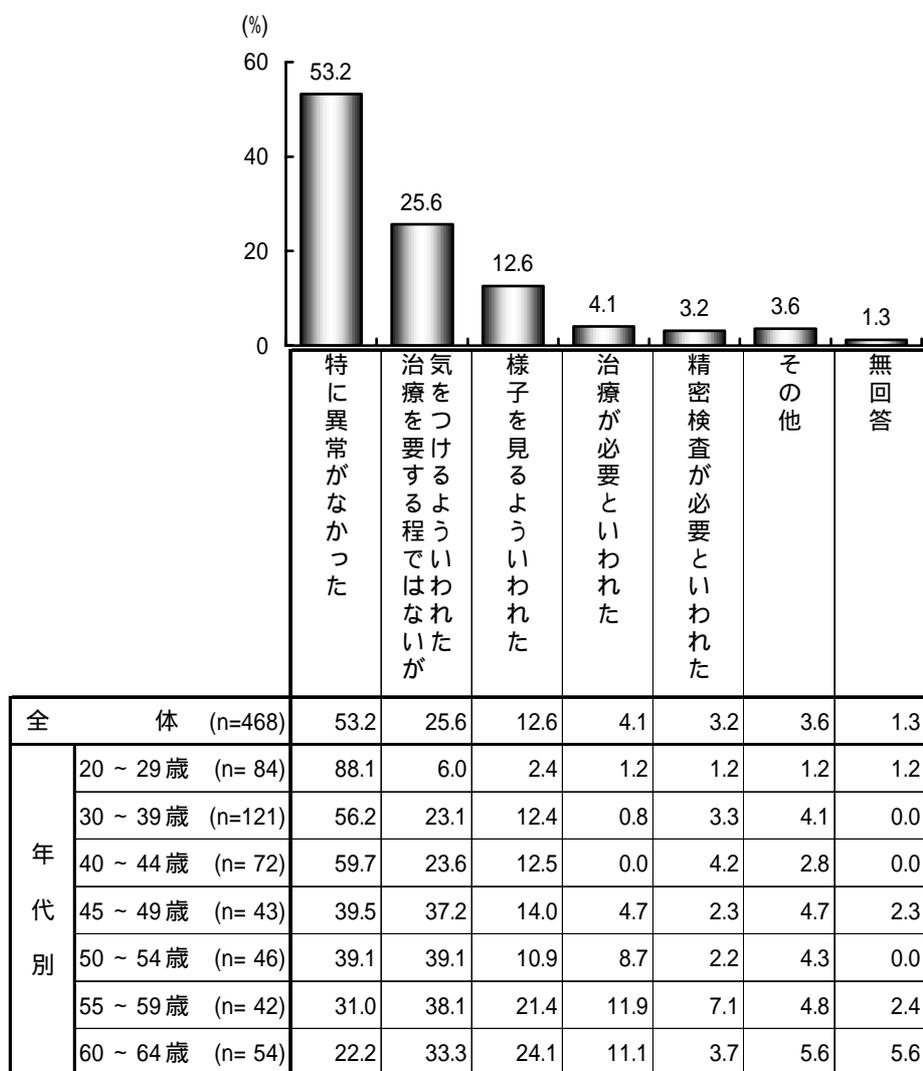
検査結果（問6 - 2）

健康診査の検査結果については、「特に異常がなかった（53.2%）」が最も多く5割を超える。

年代別にみると、20から49歳までは「特に異常がなかった」が最も多いが、50～54歳では「特に異常がなかった」と「治療を要する程ではないが気をつけるよういわれた」が39.1%と同じ割合で並び、55～59歳、60～64歳では「治療を要する程ではないが気をつけるよういわれた」が最も多くなる（図表5 - 2 - 9）。

図表5 - 2 - 9 検査結果

<健康診査を受けたと回答した人>（全体、年代別/複数回答）



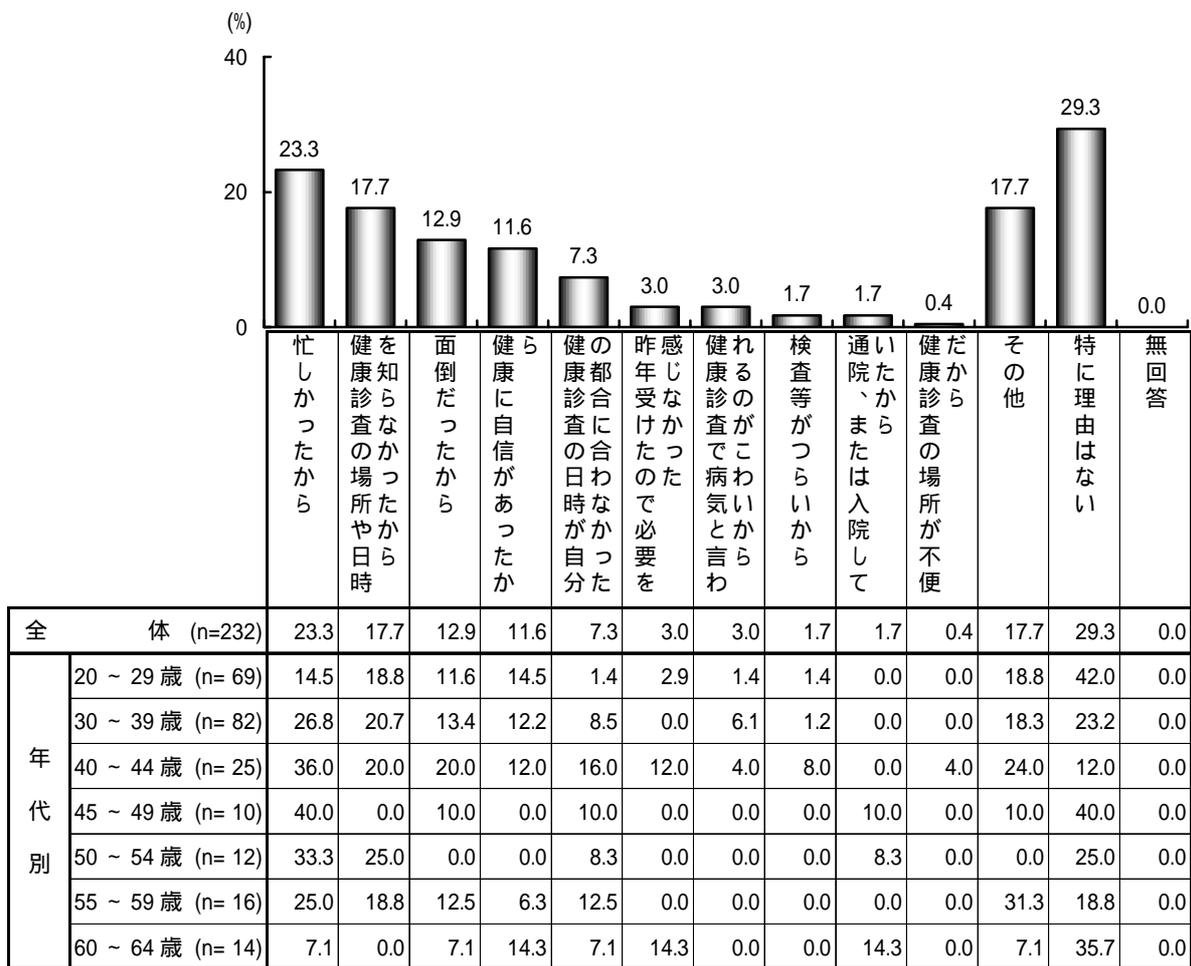
受けなかった理由（問6 - 3）

健康診査を受けなかった理由については、「特に理由はない(29.3%)」が3割近くを占め、次いで「忙しかったから(23.3%)」が2割台で続く。

年代別にみると、20～29歳と60～64歳では「特に理由はない」が高く、30から54歳では「忙しかったから」の割合が高くなっている（図表5 - 2 - 10）。

図表5 - 2 - 10 受けなかった理由

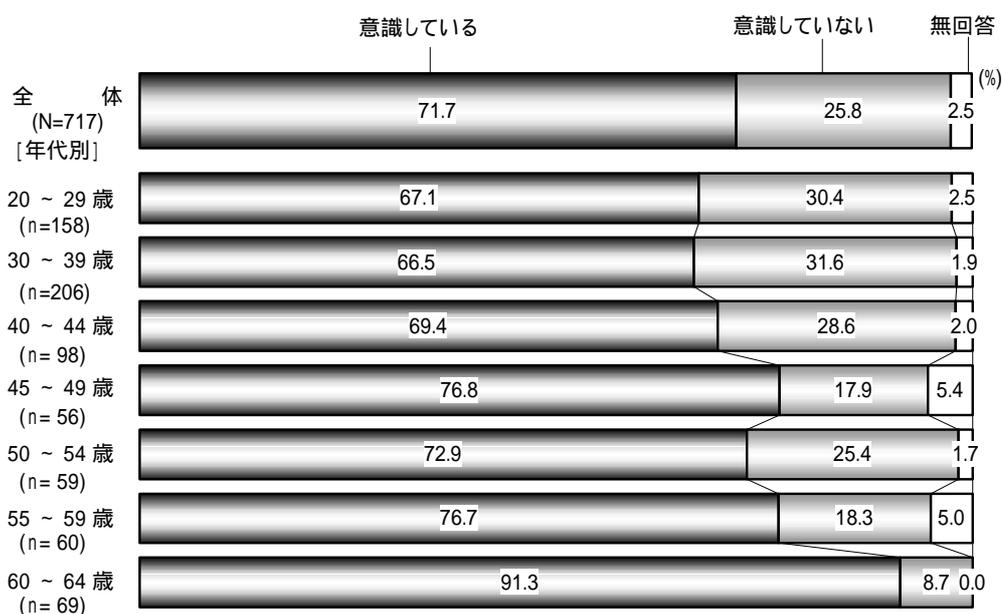
<健康診査を受けていないと回答した人>（全体、年代別/複数回答）



健康づくりについての意識（問7）

健康づくりについての意識については、「意識している（71.7%）」が7割を超えている。
年代別にみると、「意識している」は20から44歳では6割台だが、45から59歳では7割台となり、60～64歳では9割を超え、ほぼ年齢があがるにつれ健康づくりの意識が高くなる（図表5 - 2 - 11）。

図表5 - 2 - 11 健康づくりについての意識（全体、年代別）



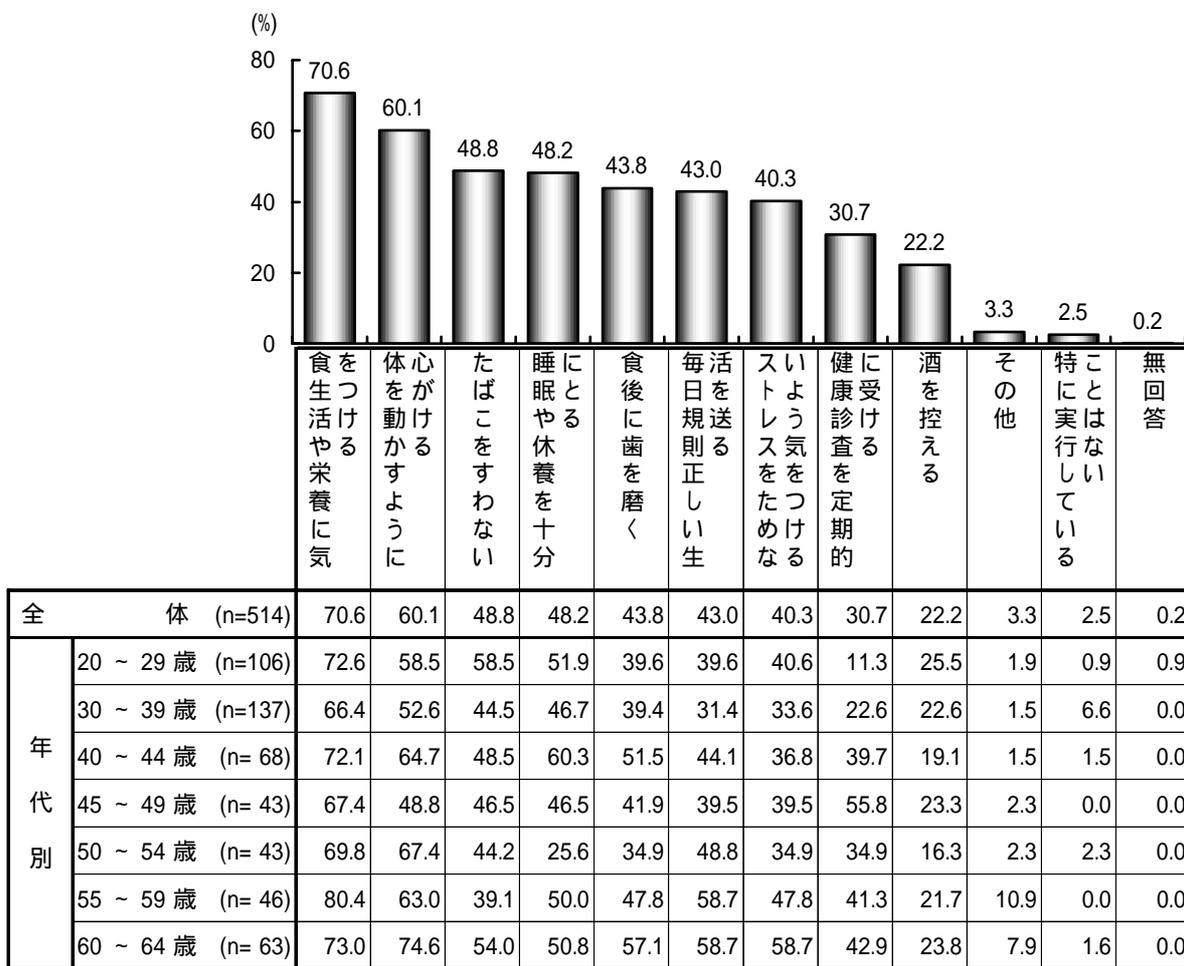
実行していること(問7-1)

健康づくりのために実行していることについては、「食生活や栄養に気をつける(70.6%)」が7割を超え最も高く、次いで「体を動かすように心がける(60.1%)」が6割台で続いている。

年代別にみると、20から59歳までは「食生活や栄養に気をつける」が最も高いが、60～64歳では「体を動かすように心がける」が最も高くなっている。40～44歳では「睡眠や休養を十分にとる(60.3%)」が他の年代よりも高い(図表5-2-12)。

図表5-2-12 実行していること

<意識していると回答した人>(全体、年代別/複数回答)



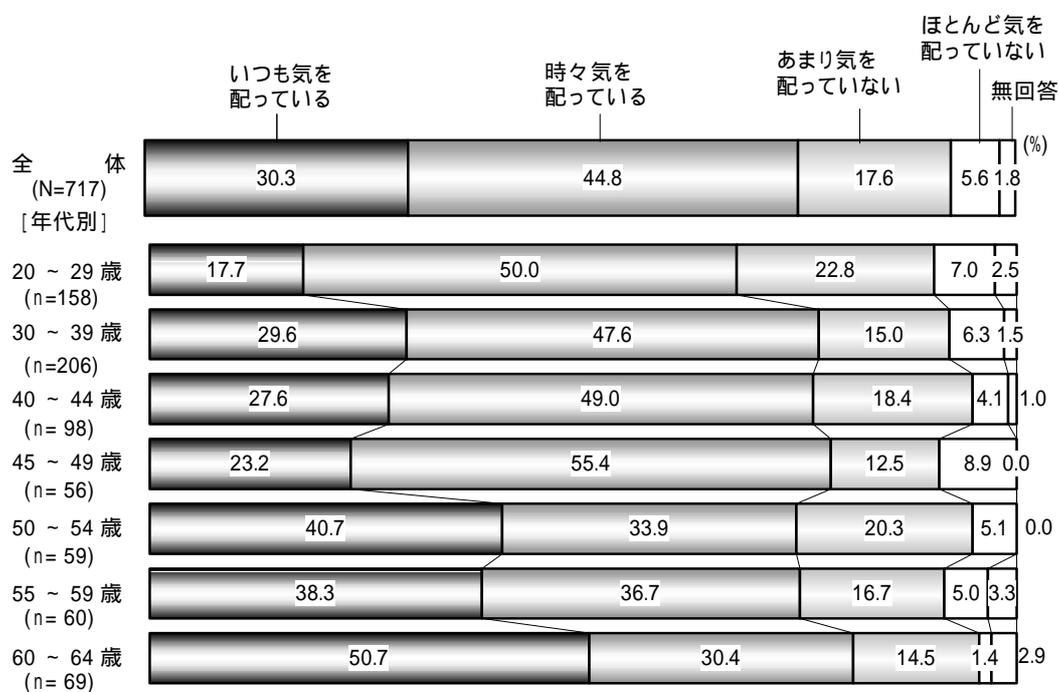
(3) 生活習慣

食生活(問8)

食生活については、「時々気を配っている(44.8%)」が4割を超え最も多く、次いで「いつも気を配っている(30.3%)」が続いており、これらをあわせて4人に3人が食生活に《気を配っている》としている。

年代別にみると、いずれの年代でも《気を配っている》割合が7割を超えるが、とくに60～64歳では「いつも気を配っている(50.7%)」が半数を超え、他の年代に比べて食事に気を配っている様子がうかがえる(図表5-3-1)。

図表5-3-1 食生活(全体、年代別)

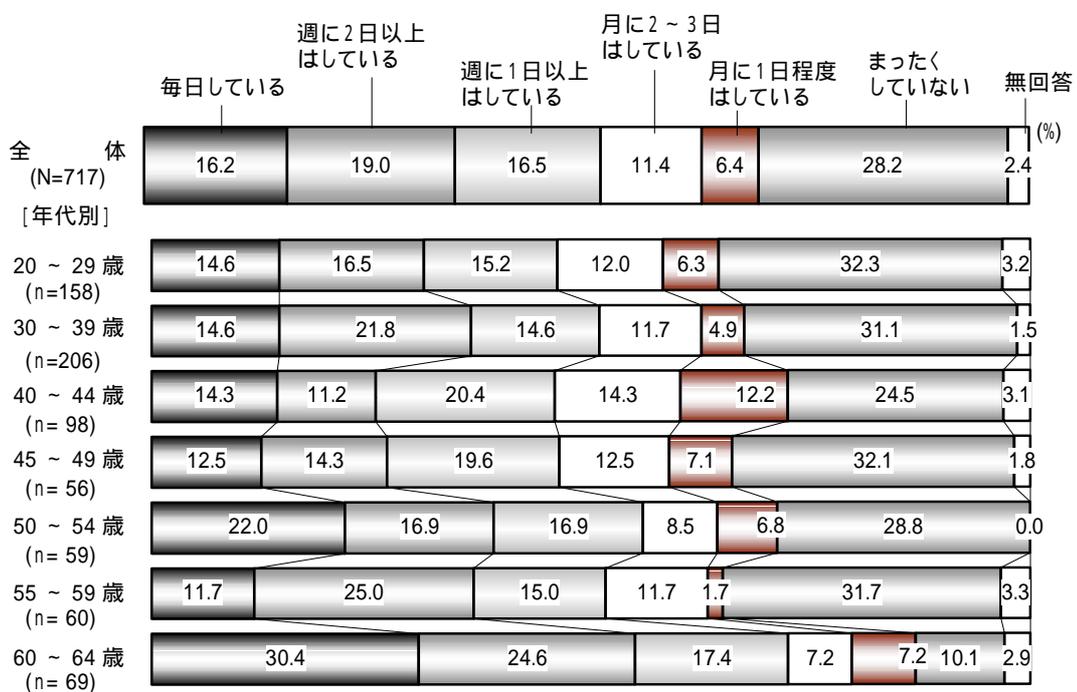


運動（問9）

運動については、「まったくしていない(28.2%)」が3割近くを占め最も多く、次いで「週に2日以上はしている(19.0%)」が続いている。

年代別にみると、20から59歳まではいずれの年代も「まったくしていない」が最も多いが、60～64歳では「毎日している(30.4%)」が3割を超え、「まったくしていない(10.1%)」は1割台にとどまるなど、60～64歳は他の年代に比べ運動をしている様子が見える(図表5-3-2)。

図表5-3-2 運動（全体、年代別）

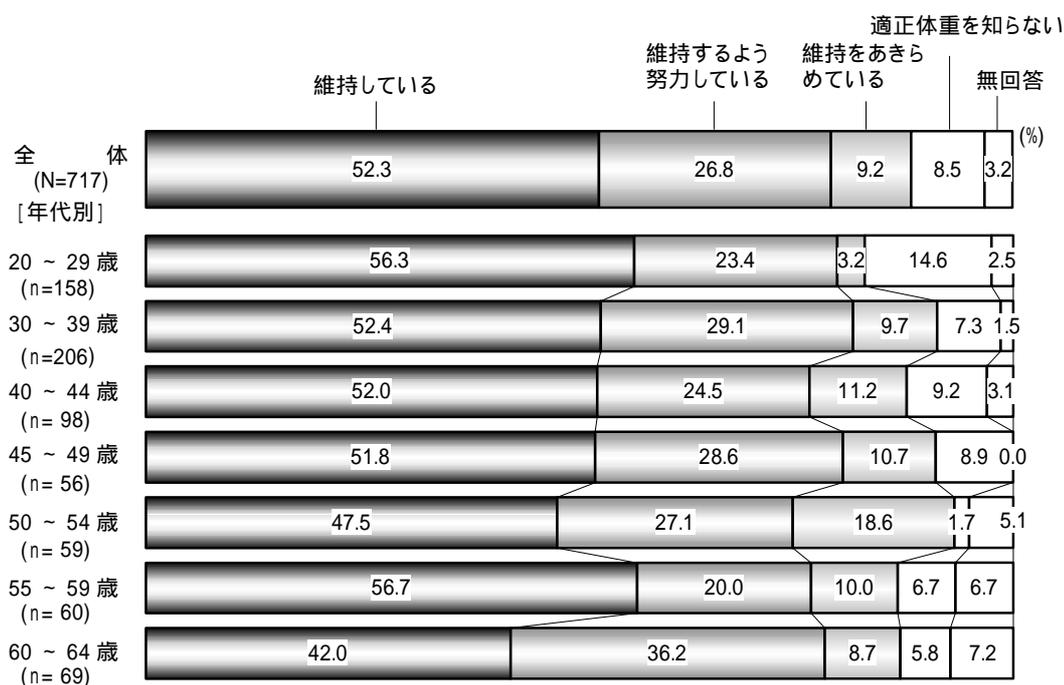


適正体重（問 10）

適正体重については、「維持している（52.3%）」が半数を占め、次いで「維持するよう努力している（26.8%）」が続いている。

年代別にみると、いずれの年代も「維持している」が最も多いが、50～54歳では「維持をあきらめている（18.6%）」が他の年代に比べ多い。また20～29歳では「適正体重を知らない（14.6%）」が他の年代に比べ多くなっている（図表5-3-3）。

図表5-3-3 適正体重（全体、年代別）

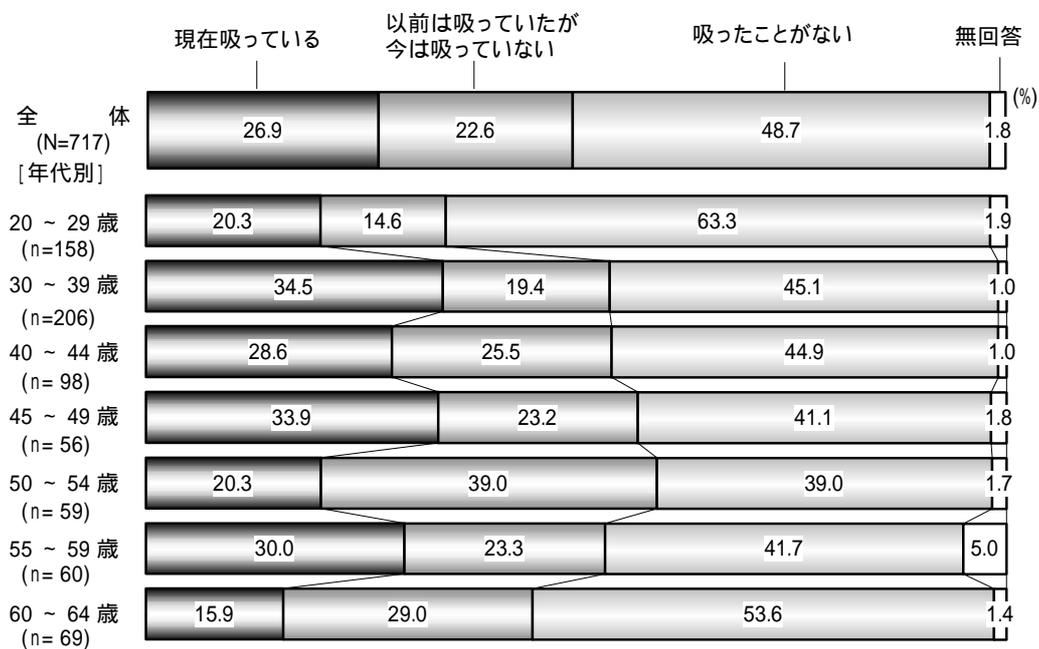


喫煙（問11）

喫煙については、「吸ったことがない（48.7%）」が最も多く、次いで「現在吸っている（26.9%）」が3割弱で続いている。

年代別にみると、いずれの年代も「吸ったことがない」が最も多い。30～39歳、45～49歳、55～59歳では「現在吸っている」が3割台となっている。60～64歳では「現在吸っている」が15.9%で他の年代に比べ少ない（図表5-3-4）。

図表5-3-4 喫煙（全体、年代別）

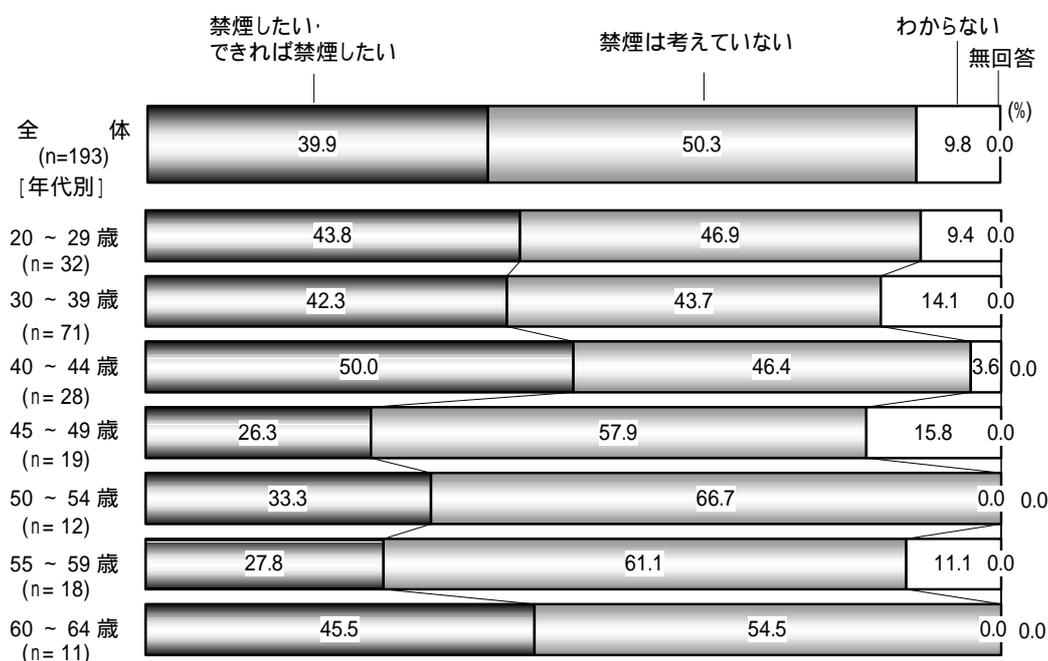


禁煙意向（問 11 - 1）

禁煙意向については、「禁煙は考えてない（50.3%）」が「禁煙したい・できれば禁煙したい（39.9%）」を10.4ポイント上回る。

年代別にみると、40～44歳では「禁煙したい・できれば禁煙したい」が「禁煙は考えていない」を上回るが、45歳より上の年代になると「禁煙は考えていない」が5割を超え、とくに50～54歳、55～59歳では6割を超え高い（図表5-3-5）。

図表5-3-5 禁煙意向
 <現在吸っていると回答した人>（全体、年代別）

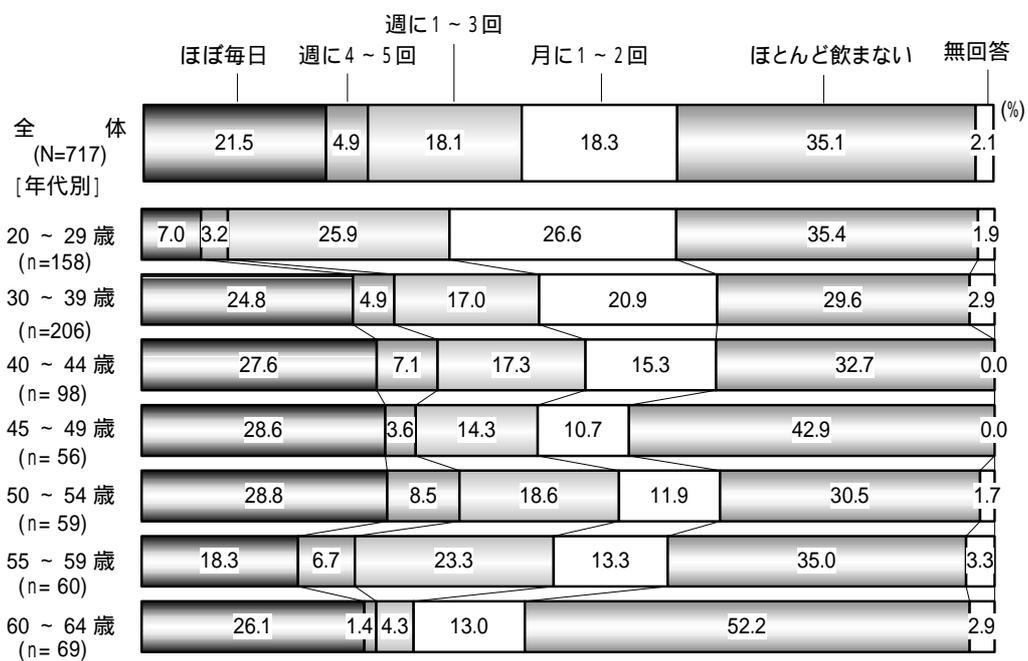


飲酒（問12）

飲酒については、「ほとんど飲まない(35.1%)」が最も多く、次いで「ほぼ毎日(21.5%)」が続いている。

年代別にみると、いずれの年代も「ほとんど飲まない」が最も多く、とくに60～64歳では「ほとんど飲まない(52.2%)」が半数を占める。一方、40～44歳、45～49歳、50～54歳では「ほぼ毎日」の割合が3割弱みられる(図表5-3-6)。

図表5-3-6 飲酒（全体、年代別）

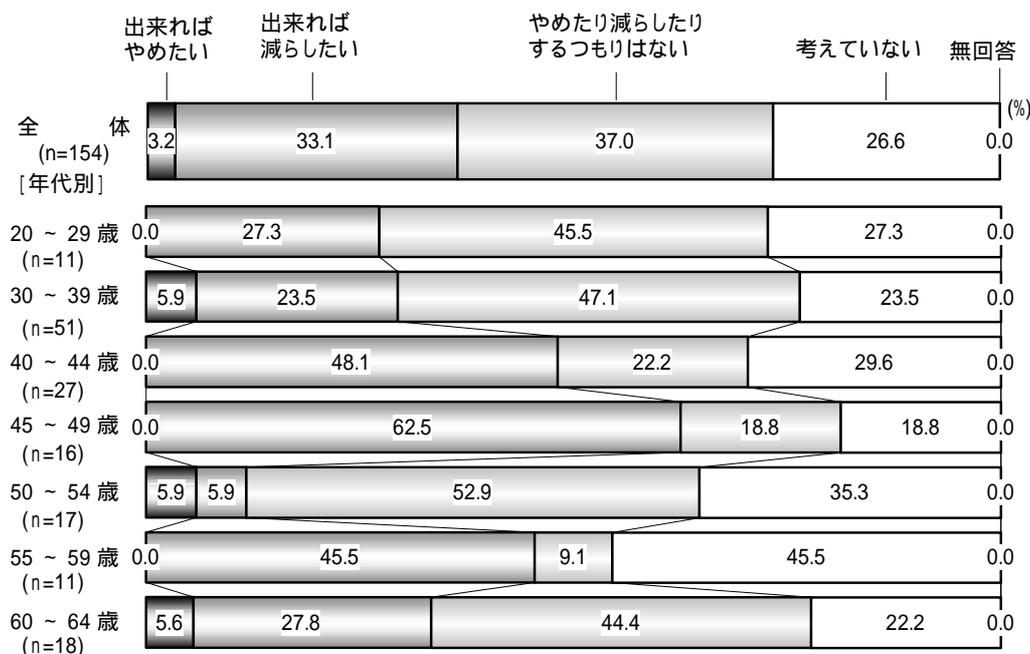


節酒意向（問 12）

節酒意向については、「やめたり減らしたりするつもりはない（37.0%）」が最も多いが、「出来れば減らしたい（33.1%）」と「できればやめたい（3.2%）」をあわせた《節酒意向あり》の者も36.3%とほぼ同数みられる。

年代別にみると、20 から 49 歳までは年代があがるにつれ、「できれば減らしたい」と「できればやめたい」をあわせた《節酒意向あり》の割合が高くなるが、50～54 歳では節酒意向は1割台にとどまり、「やめたり減らしたりするつもりはない（52.9%）」が5割を超える（図表5-3-7）。

図表5-3-7 節酒意向
 < ほぼ毎日飲んでいると回答した人 >（全体、年代別）

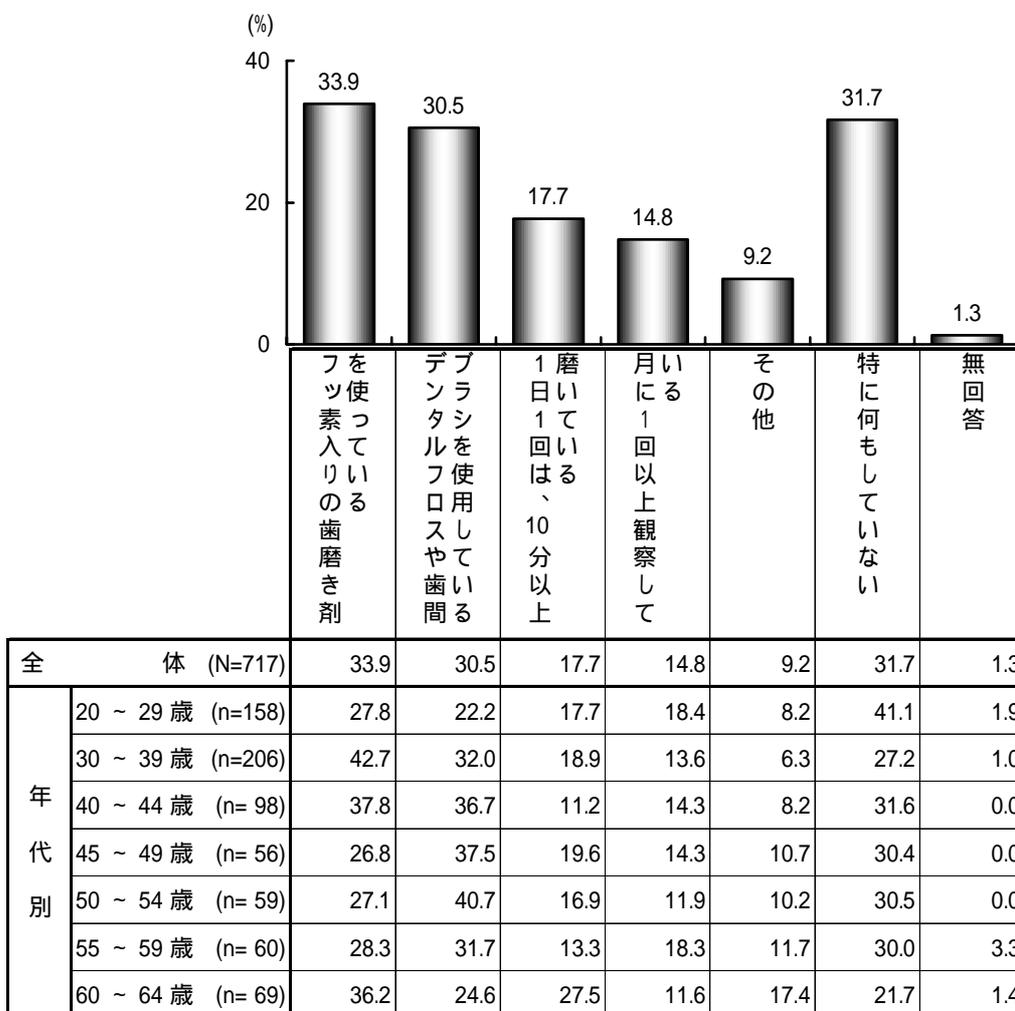


歯磨き（問13）

歯磨きについては、「フッ素入りの歯磨き剤を使っている（33.9%）」と「デンタルフロスや歯間ブラシを使用している（30.5%）」が3割を超えるが、「特に何もしていない（31.7%）」も3割を超える。

年代別にみると、20～29歳では「特に何もしていない（41.1%）」が4割を超え高い。しかし30～39歳、40～44歳では「フッ素入りの歯磨き剤を使っている」と「デンタルフロスや歯間ブラシを使用している」をあわせた割合が7割台半ばと高くなる。60～64歳では「1日に1回は10分以上磨いている（27.5%）」が3割弱みられる（図表5-3-8）。

図表5-3-8 歯磨き（全体、年代別/複数回答）

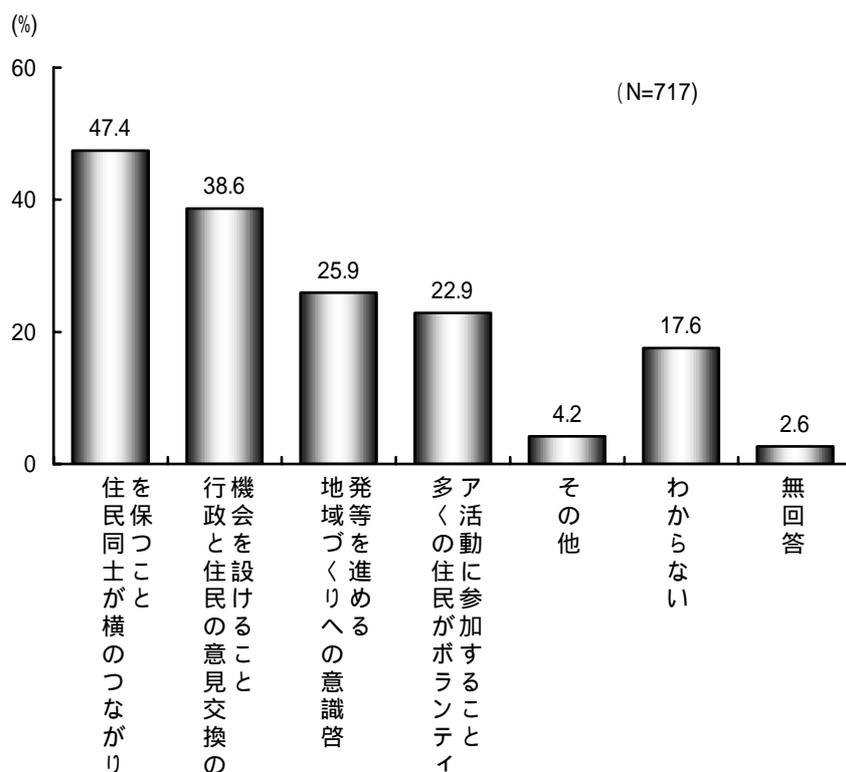


(4) 福祉に関する意識と実践活動

福祉における住民参加の考え方(問14)

福祉における住民参加の考え方については、「住民同士が横のつながりを保つこと(47.4%)」が最も多く約半数を占め、次いで「行政と住民の意見交換の機会を設けること(38.6%)」が3割台で続いている(図表5-4-1)。

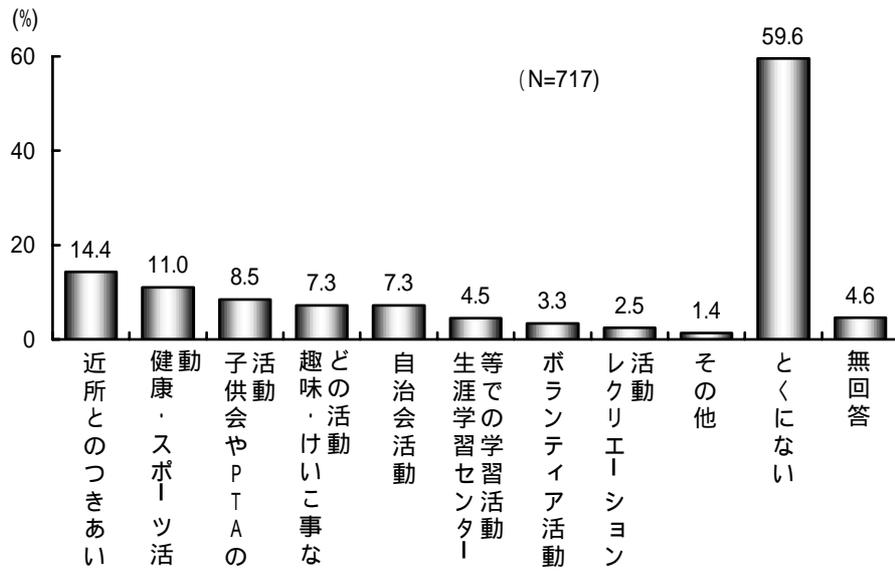
図表5-4-1 福祉に関する意識と実践活動(全体/複数回答)



地域活動の参加状況（問15 - ア）

地域活動の参加状況については、「とくにない(59.6%)」が最も多く約6割を占める。「近所とのつきあい(14.4%)」、「健康・スポーツ活動(11.0%)」が1割台となっている(図表5-4-2)。

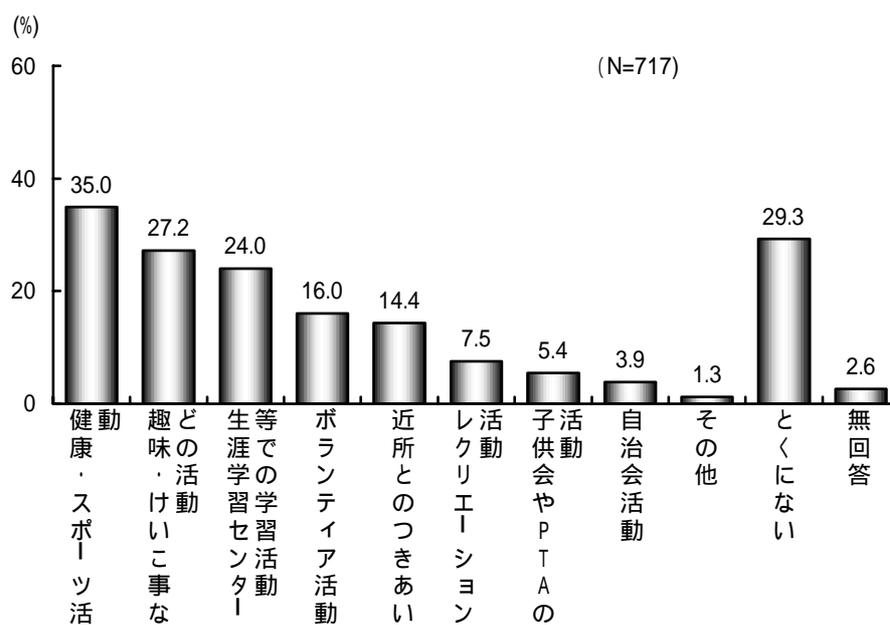
図表5-4-2 地域活動の参加状況（全体/複数回答）



地域活動の参加意向（問 15 - イ）

地域活動の参加意向については、「健康・スポーツ活動（35.0%）」が最も多く、「趣味・けいごとなどの活動（27.2%）」、「生涯学習センター等での学習活動（27.2%）」が2割台となっている。一方、「とくにない（29.3%）」も約3割を占める（図表5 - 4 - 3）。

図表5 - 4 - 3 地域活動の参加意向（全体 / 複数回答）



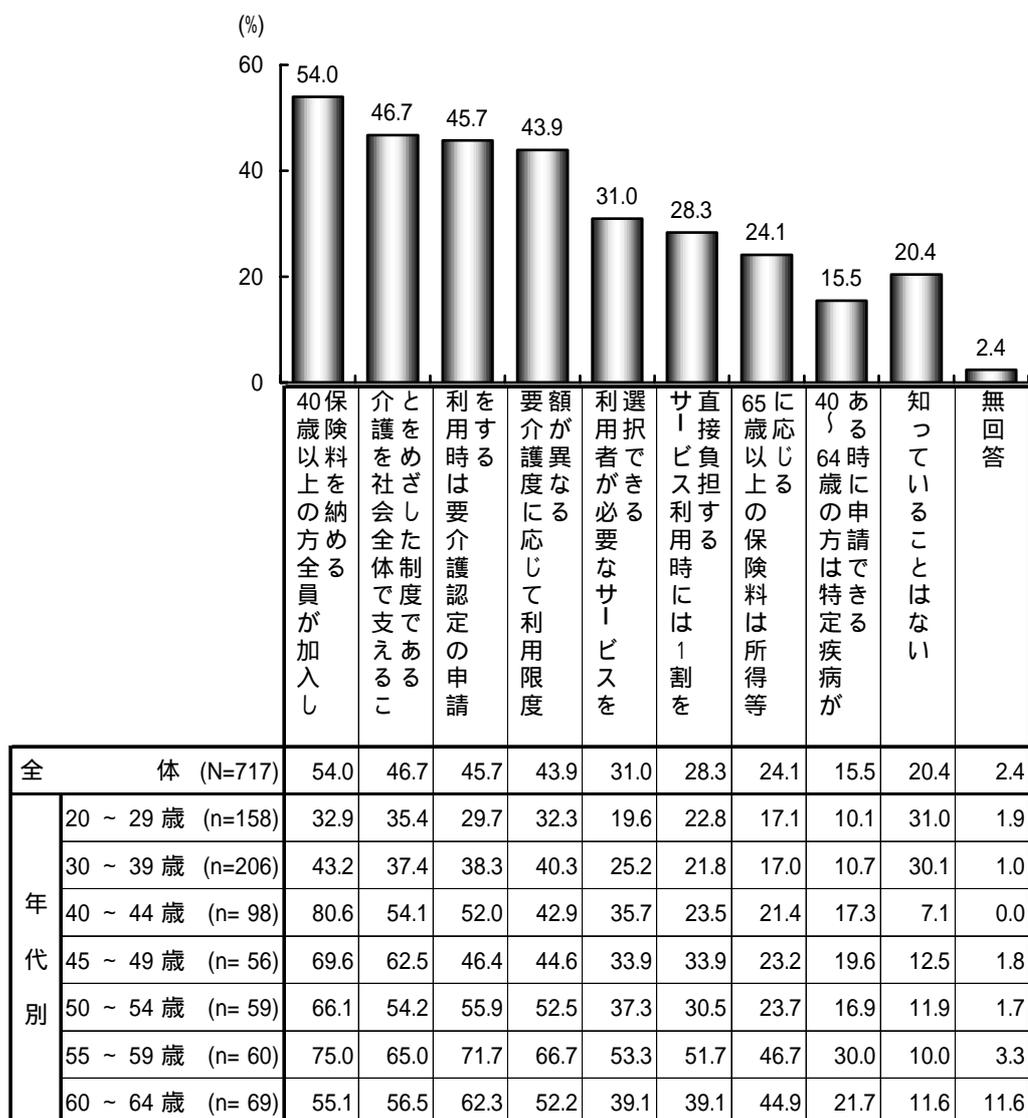
(5) 介護保険サービス

介護保険のしくみについての周知状況 (問 16)

介護保険のしくみについての周知状況については、「40歳以上の方全員が加入し保険料を納める(54.0%)」が半数を超える。次いで「介護を社会全体で支えることをめざした制度である(46.7%)」、「利用時は要介護認定の申請をする(45.7%)」、「要介護度に応じて利用限度額が異なる(43.9%)」が4割を超えて続いている。

年代別にみると、「40歳以上の方全員が加入し保険料を納める」は40歳以降で認知度の割合が高い。55～59歳は他の年代に比べいずれの項目においても認知度の割合が高い(図表5-5-1)。

図表5-5-1 介護保険のしくみについての周知状況 (全体、年代別/複数回答)

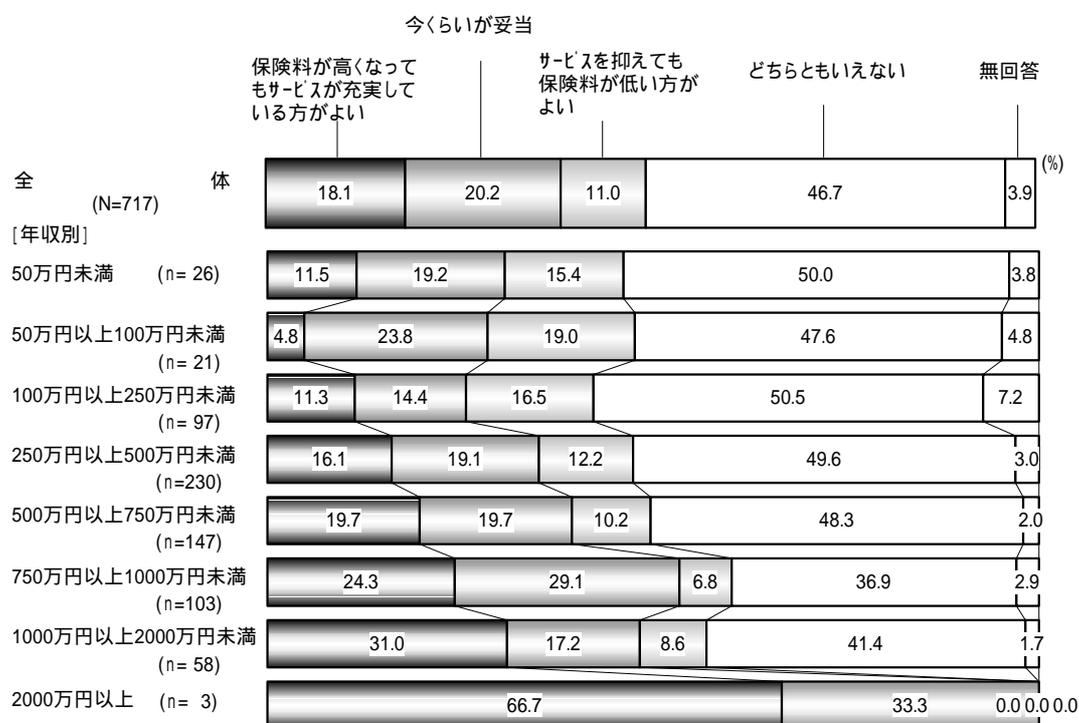


介護保険サービスと保険料についての考え方（問 17）

介護保険サービスと保険料についての考え方については、「どちらともいえない（46.7%）」が最も多く、次いで「今くらいが妥当（20.2%）」、「保険料が高くなってもサービスが充実している方がよい（18.1%）」の順となっている。

年収別にみると、「保険料が高くなってもサービスが充実している方がよい」は、50万円以上100万円未満の層は4.8%であるが、その他の層では1割を超えており、年収が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がある（図表5-5-2）。

図表5-5-2 介護保険サービスと保険料についての考え方（全体、年収別）

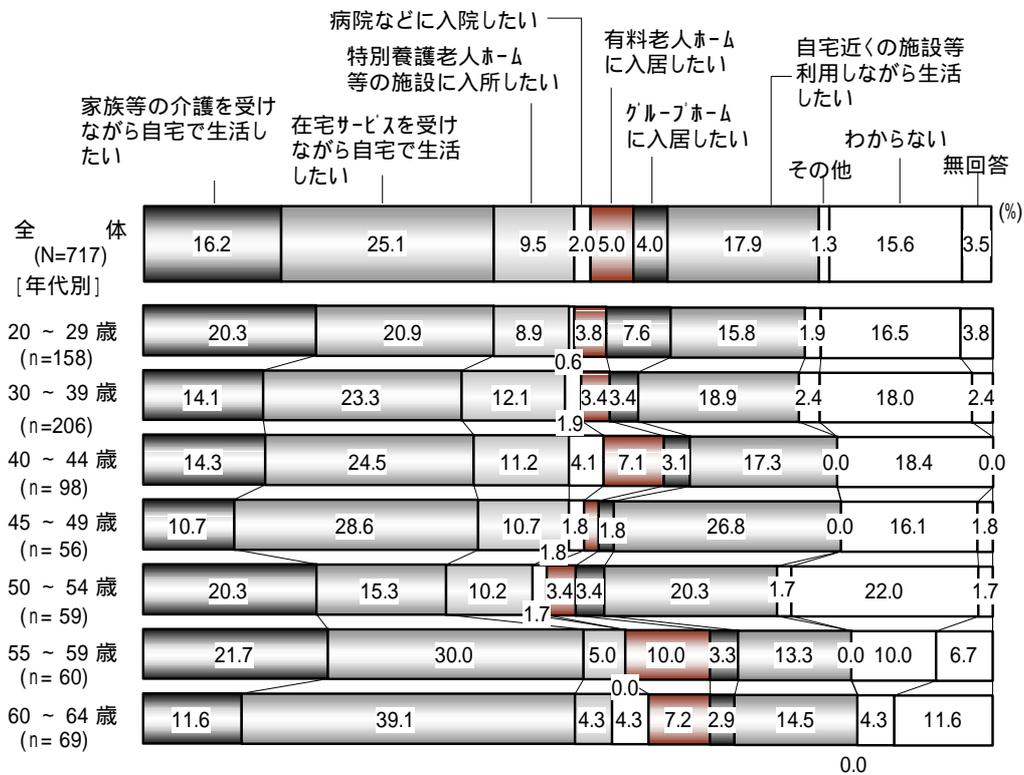


介護を受けたい場所（問18）

介護を受けたい場所については、「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい（25.1%）」が最も多く、次いで「自宅近くの施設等利用しながら生活したい（17.9%）」、「家族等の介護を受けながら自宅で生活したい（16.2%）」が1割台で続いている。

年代別にみると、55～59歳、60～64歳では「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい」が3割を超える（図表5-5-3）。

図表5-5-3 介護を受けたい場所（全体、年代別）

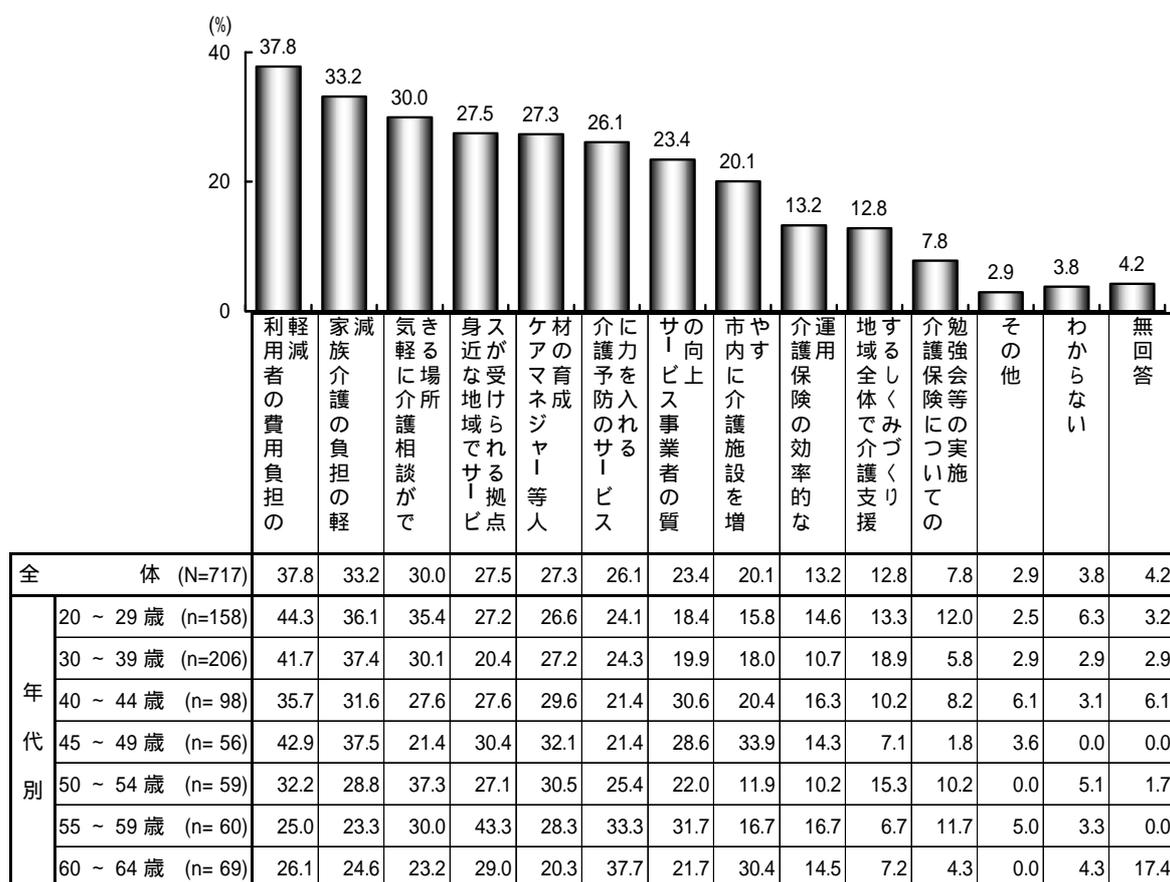


介護保険制度の改善策（問 19）

介護保険制度の改善策については、「利用者の費用負担の軽減（37.8%）」、「家族介護の負担の軽減（32.2%）」、「気軽に介護相談ができる場所（30.0%）」が3割を超え上位にあげられている。

年代別にみると、20から40歳代までの比較的若い層では「利用者の費用負担の軽減」の割合が3割から4割台と高くなっている。55～59歳では「身近な地域でサービスが受けられる拠点（43.3%）」が4割を超え他の年代に比べ高い。また高齢期間近の60～64歳では「介護予防のサービスに力を入れる」が37.7%で高くなっている（図表5-5-4）。

図表5-5-4 介護保険制度の改善策（全体、年代別／複数回答）

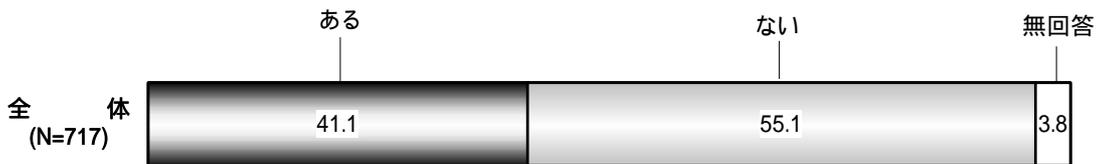


(6) 情報や相談

市のホームページの閲覧状況(問20)

市のホームページの閲覧状況については、「ない(55.1%)」が「ある(41.1%)」を14ポイント上回る(図表5-6-1)。

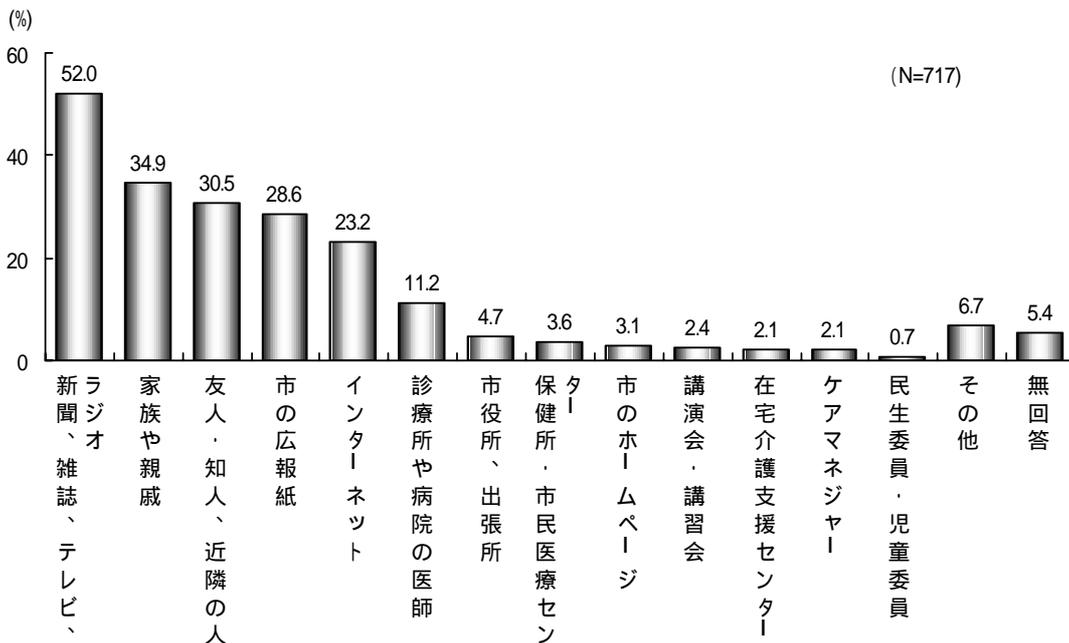
図表5-6-1 市のホームページの閲覧状況(全体)



健康や介護についての情報入手源(問21)

健康や介護についての情報入手源については、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ(52.0%)」が最も多く5割を超える。次いで「家族や親戚(34.9%)」、「友人、知人、近隣の人(30.5%)」といった口コミ情報が3割台で続く。市の広報については「市の広報紙(28.6%)」が3割近いものの、「市役所、出張所(4.7%)」や「保健所・市民医療センター(現・保健センター)(3.6%)」、「市のホームページ(3.1%)」は5%未満となっている(図表5-6-2)。

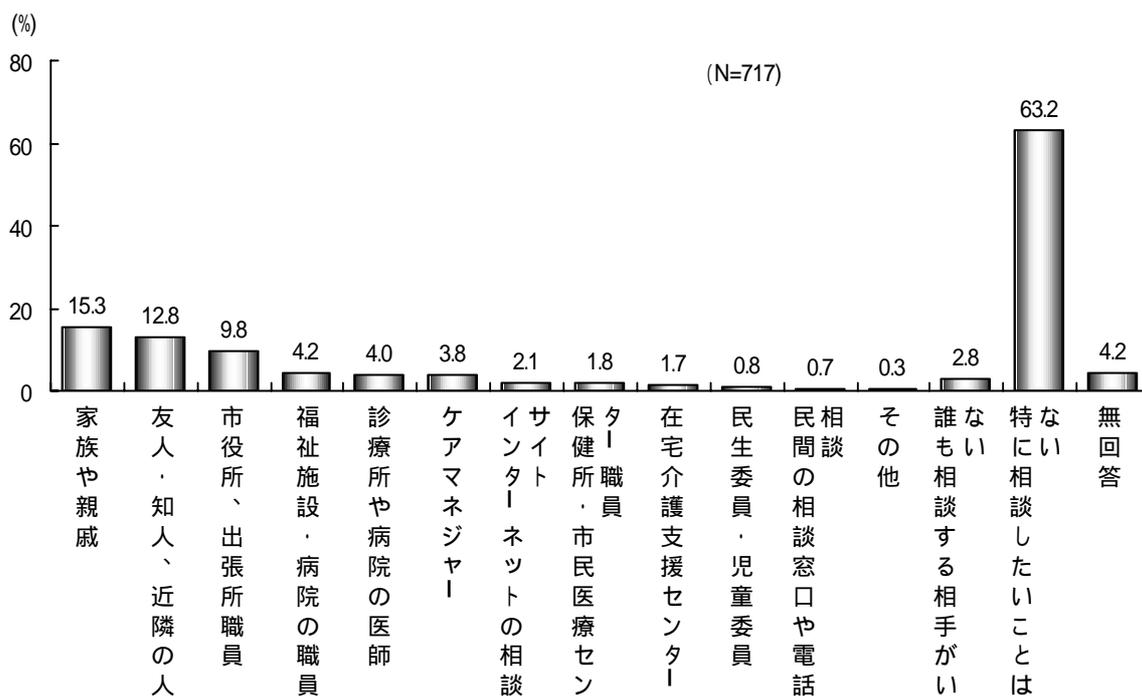
図表5-6-2 健康や介護についての情報入手源(全体/複数回答)



介護や福祉サービスについての相談先（問 22）

介護や福祉サービスについての相談先については、「家族や親戚(15.3%)」、「友人、知人、近隣の人(12.8%)」が1割台である。一方「特に相談したいことはない(63.2%)」が6割を超える。「在宅介護支援センター」は1.7%とわずかである(図表5-6-3)。

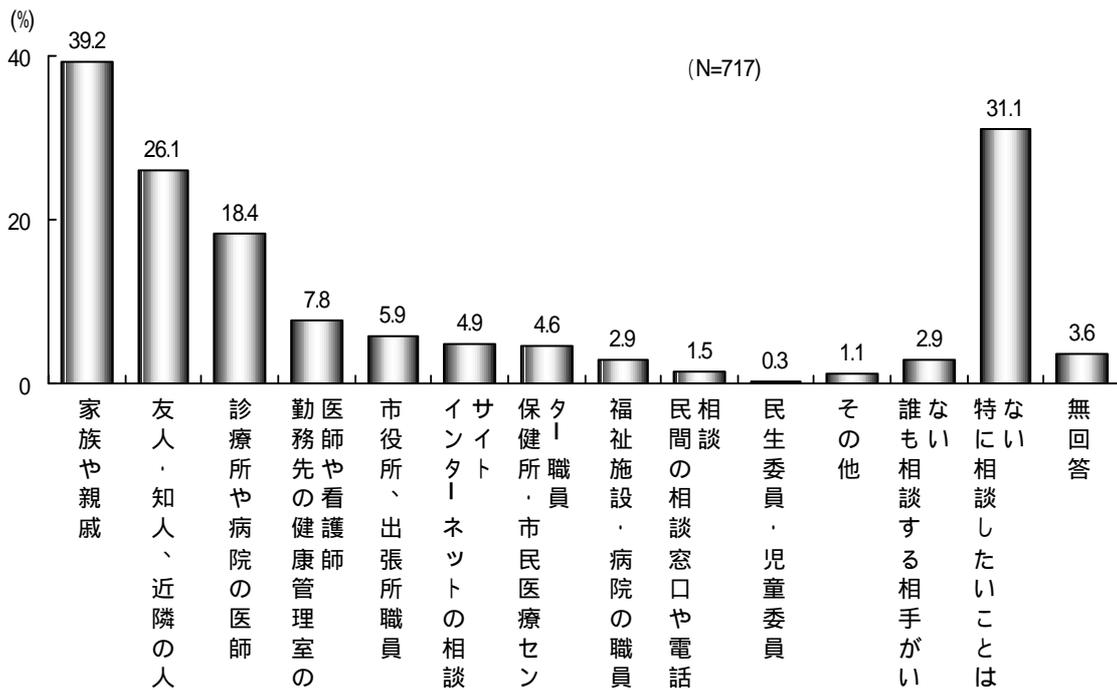
図表5-6-3 介護や福祉サービスについての相談先（全体/複数回答）



医療や保健についての相談先（問23）

医療や保健についての相談先については、「家族や親戚(39.2%)」が最も多く、次いで「友人、知人、近隣の人(26.1%)」が続く。一方「特に相談したいことはない(31.1%)」が3割を超える(図表5-6-4)。

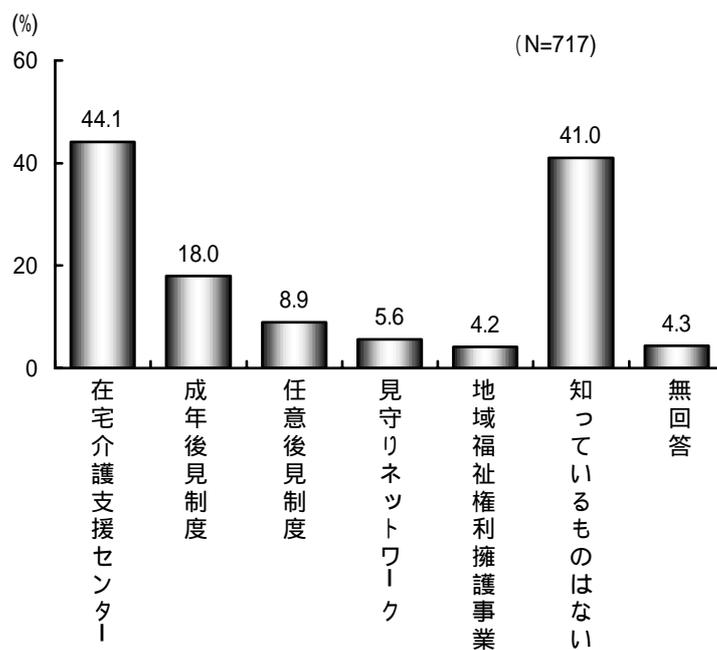
図表5-6-4 医療や保健についての相談先（全体/複数回答）



権利擁護制度の周知状況（問 24）

権利擁護制度の周知状況については、周知されているものでは「在宅介護支援センター（44.1%）」が4割を超え高く、次いで「成年後見制度（18.0%）」となっている。「知っているものはない（41.0%）」も4割を超える（図表5 - 6 - 5）。

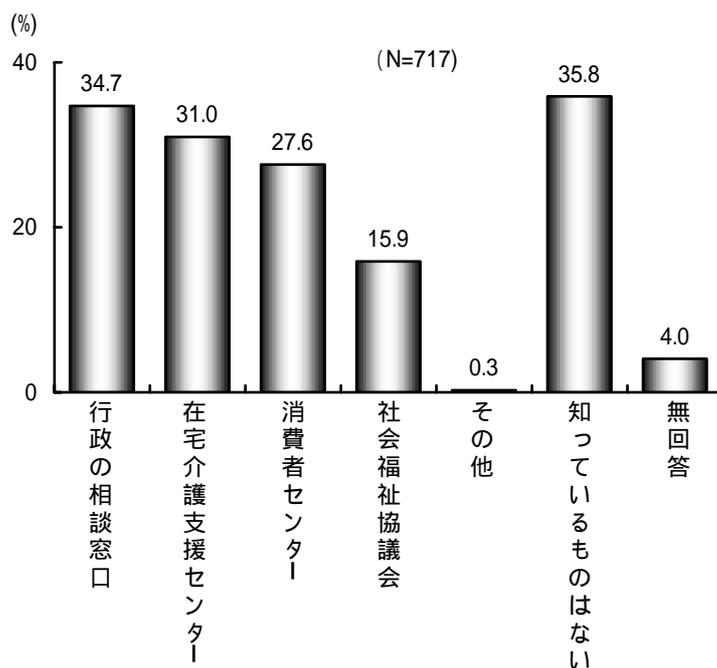
図表5 - 6 - 5 権利擁護制度の周知状況（全体 / 複数回答）



相談窓口の周知状況（問25）

相談窓口の周知状況については、「行政の相談窓口（34.7%）」、「在宅介護支援センター（31.0%）」、「消費者センター（27.6%）」の順にあげられている。一方「知っているものはない（35.8%）」が最も多い（図表5-6-6）。

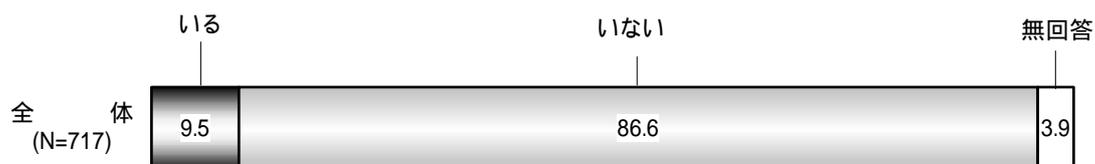
図表5-6-6 相談窓口の周知状況（全体/複数回答）



周囲で困っている人の有無（問 26）

周囲で困っている人の有無については、「いない（86.6%）」が9割近くを占める（図表5-6-7）。

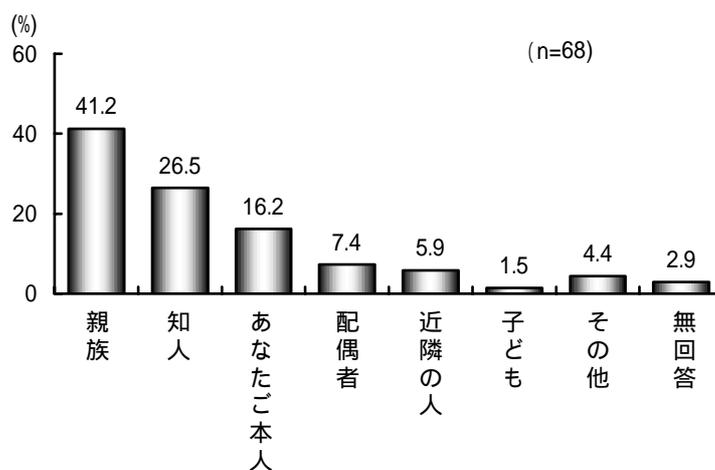
図表5-6-7 周囲で困っている人の有無（全体）



困っている人（問 26 - 1）

困っている人については、「親族（41.2%）」、「知人（26.5%）」、「あなたご本人（16.2%）」の順となっている（図表5-6-8）。

図表5-6-8 困っている人
 <困っている人がいると回答した人>（全体 / 複数回答）

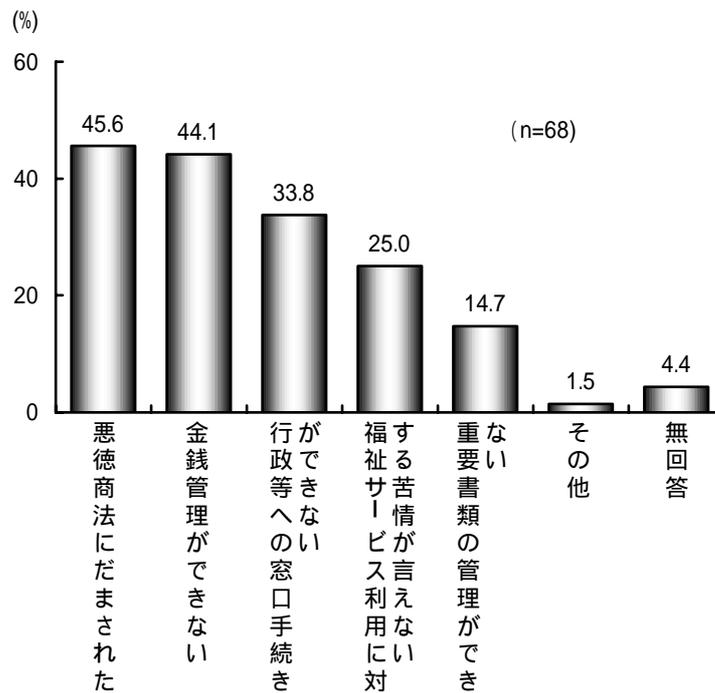


事例（問26 - 2）

事例については、「悪徳商法にだまされた（45.6%）」、「金銭管理ができない（44.1%）」が4割台で高く、次いで「行政等への窓口手続きができない（33.8%）」があげられている（図表5 - 6 - 9）。

図表5 - 6 - 9 事例

<困っている人がいると回答した人>（全体 / 複数回答）



(7) 要望

自由回答には全体で 201 件の記入があった。以下、主な意見を記載した。

<情報の提供：36 件>

- ・ 近所づき合いがあまりなく、さらに一人暮らしの場合、地域社会との接点（情報源）は回覧板くらいなのではないか。従来、回覧板の情報には我々が知りたいと思う情報が少ない。福祉、介護も含め、市の行政サービスの情報を各地域の回覧板を通してもっと発信して欲しい。（男性、20～29 歳）
- ・ 府中だと、ケーブルテレビが普及しているので、サービスについての番組を放送するとよいのでは？ホームページ上でわかりやすいコンテンツを充実させるなど。（男性、30～39 歳）
- ・ 以前参考資料として介護保険についてのパンフレットを拝見させて頂いたことがあります。大変見やすくて分かりやすい内容だったので、私自身とても勉強になりました。（女性、20～29 歳）
- ・ 市内各老人会（府老連）会合時に、会場へ出向き色々な説明会の催しを多くし、知識を高めるのと状況を知る機会を増やす事が必要。広報ペーパーではだめ。（男性、60～64 歳）
- ・ 介護保険制度についての情報をもっと分かりやすく開示してほしい。市内で訪問看護をしている事業者について市役所に聞きに行ったが、5 年前の資料しかもらえなかったそうです。常に最新の情報が得られるようにしていただきたい。（女性、30～39 歳）

<介護保険について：27 件>

- ・ 審査は公平に行い、本当に必要としている人を見極めて平等な対応を望みます。（女性、55～59 歳）
- ・ 老老介護や介護をする家族へのフォローをしてくれる態勢ができればいいと思います。又、本当に介護保険を必要とする人に必要なサービスが提供されているのか疑問に感じる事があります。（女性、30～39 歳）
- ・ 仕事柄（理学療法士）介護事情などの情報を耳にすることが多いが、在宅支援業者が利益優先のためか不必要なサービス提供を多く行っているように思われます。（特に家事援助、介護度の低い利用者の物品使用など）介護保険はある程度介護者の自立を支援すべきで、本人や家族がそのサービスに甘える仕組みを作る事には賛成致しかねます。（女性、30～39 歳）
- ・ 介護保険の適正な運用を行い、若い世代が将来その対象になった際に期待する効果を得られない事がないようにして欲しい。（男性、20～29 歳）
- ・ 一人暮らしの高齢者の介護がもっと充実すると安心です。その反面、親族との関係がさっぱりしたものにならないよう、介護サービス関係の人と、高齢者と親族とのしっかりした報告等の三位一体体制をきちんと作ってほしいです。（女性、20～29 歳）

<保険料について：16 件>

- ・ 介護保険料を支払えない人への減免制度を充実させる。医療費補助（負担）を拡大させる。

(女性、20~29歳)

- ・ 介護保険のサービスの提供量を拡大、充実させても保険料は高くしないでほしい。(女性、60~64歳)
- ・ 保険料が生活を圧迫しては元も子もない。(男性、30~39歳)
- ・ きちんと払っている人、未納期間があった人、未納の人とサービスに差をつけるべきである。でなければ払わなくても良いとなってしまいます。(男性、40~44歳)

<保健福祉について：12件>

- ・ 10年20年後に備えた準備を進めて頂きたいと思います。(男性、30~39歳)
- ・ 市は老人に多額の税金を使うが、働く世代の健康診断などは年代・期間限定レベルになっている。働く世代の健康管理にもっと税金を使ってもらいたい。(女性、55~59歳)
- ・ 住民ひとりひとりの健康状態を市が把握できるようになったら最高。(性別、年齢不明)

<施設への要望：12件>

- ・ 特別養護老人ホームが少ないと思います。(男性、50~54歳)
- ・ できるだけ家族に負担のかからない地域密着型の専門の施設(相談所)サービスを図ってほしいです。(女性、40~44歳)
- ・ 老人向けのスポーツフィットネス施設のようなものが身近にあると嬉しい。(女性、45~49歳)
- ・ 以前親族の入所の面談を何ヶ所か受けたが全て断られた。こういう場でも商売意識があるのではと不安に思った。また、市の規模に対して老人施設が少ないように感じる。(女性、20~29歳)

<まちづくり：11件>

- ・ 駅へのスロープがあればと思う時があります。(女性、20~29歳)
- ・ 安心して歩ける歩道(段差や障害物の少ない)や、又お年寄りが自転車を利用しなくてすむ様にアクセスをもっと良くして頂きたいです。(性別、年齢不明)
- ・ 市で管理する公園を整備してほしい。さびれている公園も少なくないので、もっと明るくしてください。(女性、30~39歳)
- ・ 市の施設を回るちゅうバスを作ってほしい。医療センターとか、文化センターとか、都立病院、お年寄り以外にも子供連れの人とかが乗ると思う。(女性、40~44歳)
- ・ 弱者に優しい町づくりをお願いします。市の自転車置場を作ってほしい。地域の防犯に力を入れてほしい。(男性、30~39歳)

<子育ての環境：10件>

- ・ 介護も必要だと思うが、子供を育てる環境づくりのほうが絶対に必要。働く女性を応援してください。(女性、20~29歳)
- ・ 保険料がこれ以上上がり、少子化が進むと、一人あたりの負担も大きくなるので、まずは安

心して子どもを産める様な社会にしてほしい。(女性、30~39歳)

<感謝・激励：10件>

- ・ 府中市は色々な面で充実していると思います。(女性、30~39歳)
- ・ いつの時でも、福祉や介護を受ける人達のことを考えたサービス、本当にしてほしいサービスを追求していただきたいと思います。(女性、30~39歳)
- ・ 福祉サービスには力を入れて頂いていると肌で感じておりますが、全体的な財政事情はかなり厳しいのではないかと考えています。大変かとは思いますが、最低でも今現在の体制レベルを維持して頂きたいと思います。(男性、30~39歳)

<事業者の情報開示：9件>

- ・ 介護業界を狙った悪質業者が増えないことを願うだけ。(男性、20~29歳)
- ・ サービス業者のランク付けをするなど、いざ利用しようと思う時に安心して利用できる情報提供をもっとしてほしい。(女性、20~29歳)
- ・ サービス業者の不正監視。(性別、年齢不明)

<今後勉強したい：8件>

- ・ 介護保険等、まだ身近に関わっていないので分からない事ばかりですが、今後は自分や親の事も含めて関心を持っていこうと思います。(男性、30~39歳)
- ・ 市で行っている行政サービス等の認識が自分には無かったのでもう少し勉強し、いざという時の為に備える事が大切だと実感しました。(女性、40~44歳)

<ボランティア：8件>

- ・ ボランティア等参加したいと思うが、情報が少なく連絡が取り辛い。(男性、40~44歳)
- ・ 暇があればお手伝いしたい事がたくさんあります。この街へやってきて、お世話になるばかりで、誰かを助けるという機会に恵まれません。(男性、30~39歳)

<福祉従事者の職場環境の改善：6件>

- ・ 福祉の仕事(特に現場で働く者にとって)は、時間的にも体力的にもハードです。福祉を充実させるには、まず福祉従事者が働きやすい場を・・・と思います。(女性、20~29歳)
- ・ ヘルパーなど福祉関係に従事している人の時給が少なすぎる。人件費削減の為、職員は最小限・重労働で長続きしないのが実状のようです。(女性、20~29歳)
- ・ 先日テレビで拝見しましたが、高齢者の中には不屈きな輩が居て、ヘルパーさんを家政婦の様に扱う人がいました。こういった事は府中市に於いては無い様に御尽力願いたい。(男性、40~44歳)

<手続きや相談について：6件>

- ・ 実際に手続き方法が分からずして、介護が必要な状態であるにもかかわらず、受けていない

老人や、必要以上のサービスを受けている老人など、人それぞれだと思う。(女性、40～44歳)

- ・ どこへ相談すれば良いか、窓口を統一して知らせてほしい。(男性、30～39歳)
- ・ 老夫婦や一人暮らしのお年寄りへの行政による見回り等のサポートで、普段から相談し易い環境作りをしてほしい。(女性、20～29歳)

<健康診断・検診：6件>

- ・ 人間ドックのような予防施策を充実してほしい。(女性、55～59歳)
- ・ 健康診査は抽選などではなく、希望者全員が皆受けられるようにしてほしい。(女性、30～39歳)
- ・ 無料検診の対象年齢の枠を低くし、働き盛りの20代30代への配慮がほしい。(男性、30～39歳)

<アンケートについて：5件>

- ・ ただアンケートをとり「なるほど」で終るのではなく、アンケートを参考に動いて頂きたい。さらに、どこがどのように見直されたのか、市民に分かるように広報紙等で広く公開してもらいたい。(女性、20～29歳)
- ・ こういったアンケートに協力はしたいが、突然送られてくると悪質商法の一つのように勘違いしてしまいます。行う前にこういったアンケートがあるというようなインフォームド・コンセントをとってくれるとうれしいです。(男性、20～29歳)

<考えた事がない：4件>

- ・ 周りにそういう高齢の方がいないためか、まだ深く考えた事はありません。(女性、20～29歳)

<その他：15件>

- ・ 府中市に引っ越して来てまだ日が浅いので分からない部分が多い。もう少し落ち着いてから地域活動等に参加していきたいと考えている。(女性、45～49歳)
- ・ 行政の決断は、住民の生活に大きな影響を与えるものだから、常に考え抜いた末で決断するようにしてほしい。(結果的に間違ってしまうのは仕方がないと思うので)(男性、30～39歳)